

大分の畜産

2012

第10回全国和牛能力共進会 第1区 農林水産大臣賞

みつぼし
光星



平成24年度

大分県

目 次

I 農業及び畜産の概要	
1. 農業の概要	1
2. 畜産の概要	3
II 家畜別の動き	
1. 肉用牛	4
2. 乳用牛	8
3. 豚	11
4. 採卵鶏	13
5. ブロイラー	16
6. 地鶏	19
7. 生産費と所得の推移	20
III 飼料	22
IV 家畜衛生・畜産環境	25
V 第10回 全国和牛能力共進会取組み結果	27
資料1 畜産関係団体等一覧	28
資料2 畜産関係機関県組織機構	29
資料3 大分県の種雄牛	30
資料4 県内の主要なふれあい牧場	31
資料5 平成23年農林水産部 畜産振興課・家畜衛生飼料室の 主な出来事	33

I 農業及び畜産の概要

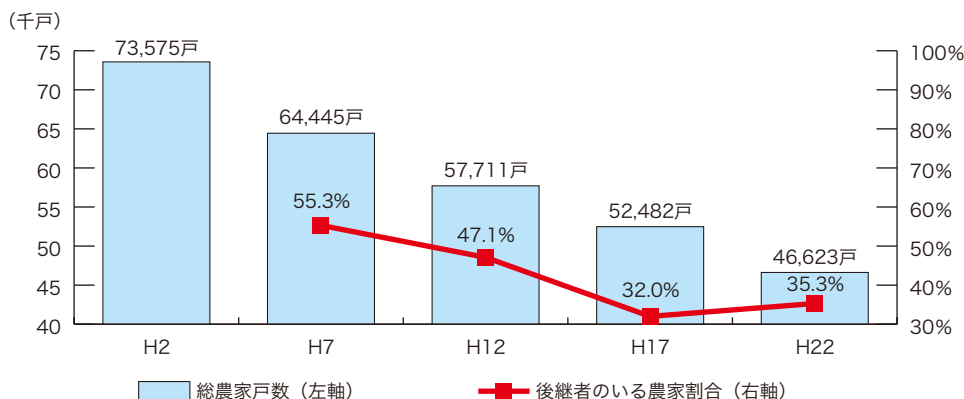
1. 農業の概要

(1) 本県農業の位置づけ

項目	単位	区 分					資料
		大分県	九州	全国	大分/九州(%)	大分/全国(%)	
総農家戸数	戸	46,623	363,232	2,527,948	12.8	1.8	農林水産省「農林業センサス(平成22年)」
販売農家戸数	戸	29,512	237,899	1,631,206	12.4	1.8	
(構成比)	(%)	63.3	65.5	64.5	96.6	98.1	
農業就業人口	人	43,977	405,407	2,605,736	10.8	1.7	農林水産省「生産農業所得統計(平成23年)」
農業産出額	億円	1,331	16,227	82,463	8.2	1.6	
生産農業所得	億円	441	4,901	27,800	9.0	1.6	
生産農業所得÷農業産出額	(%)	33.1	30.2	33.7	109.7	98.3	
農業産出額÷総農家戸数	千円	2,855	4,467	3,262			
農業産出額÷販売農家戸数	千円	4,510	6,821	5,055			
耕地面積	ha	57,600	556,900	4,561,000	10.3	1.3	農林水産省「耕地及び作付面積統計(平成23年)」
田面積	ha	40,800	323,300	2,474,000	12.6	1.6	
(構成比)	(%)	70.8	58.1	54.2	121.9	130.6	
畑面積	ha	16,800	233,600	2,087,000	7.2	0.8	
(構成比)	(%)	29.2	41.9	45.8	69.7	63.8	
うち牧草地	ha	2,800	13,800	615,200	20.3	0.5	
(構成比)	(%)	4.9	2.5	13.5	196.0	36.3	

(注) 販売農家：経営耕地面積が30a以上又は農産物販売金額が50万円以上の農家。
 農業就業人口：販売農家で、農家に常住し、しかも生活の本拠をそこに持つ世帯員のうち、調査期日前1年間に、「農業のみに従事した世帯員」及び「農業と兼業の双方に従事したが、農業の従事日数の方が多い世帯員」。
 生産農業所得：農業産出額から生産のために投入された物的経費を控除して推計したものの。

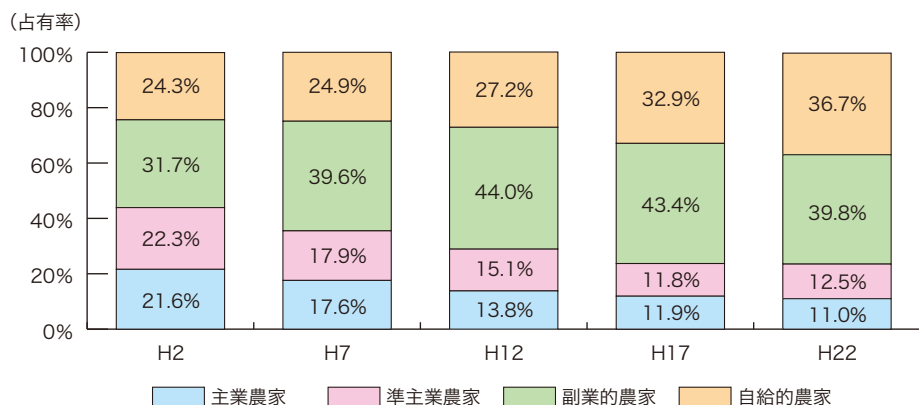
(2) 農家戸数の推移（大分県）



農家戸数はH22年が46,423戸で、5年前に比べ11%減少した。5年毎に約10%が廃業しており、この20年で3分の2以下まで減少した。
 後継者のいる農家割合はH22年が35.3%で、5年前に比べ3.3ポイント増加したものの、戸数では300戸以上減少した。

資料：農林水産省「農林業センサス」

(3) 主業副業農家占有率の推移（大分県）

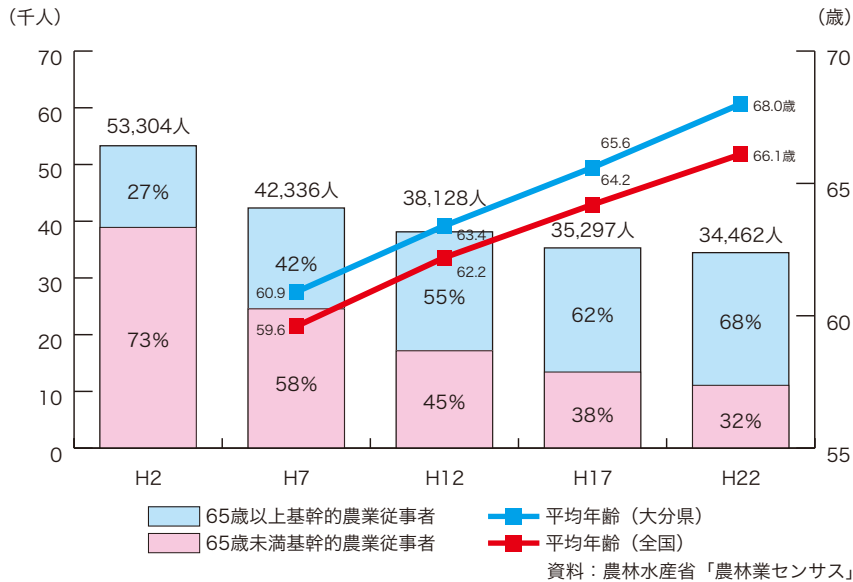


H22年の農家戸数46,623戸のうち、主業農家の割合は11.0% (5,144戸)で、5年前に比べ0.9ポイント減少した。
 農家戸数は5年前に比べ、11%減少し、主業農家戸数は17.6% (1,119戸)減少した。

資料：農林水産省「農林業センサス」

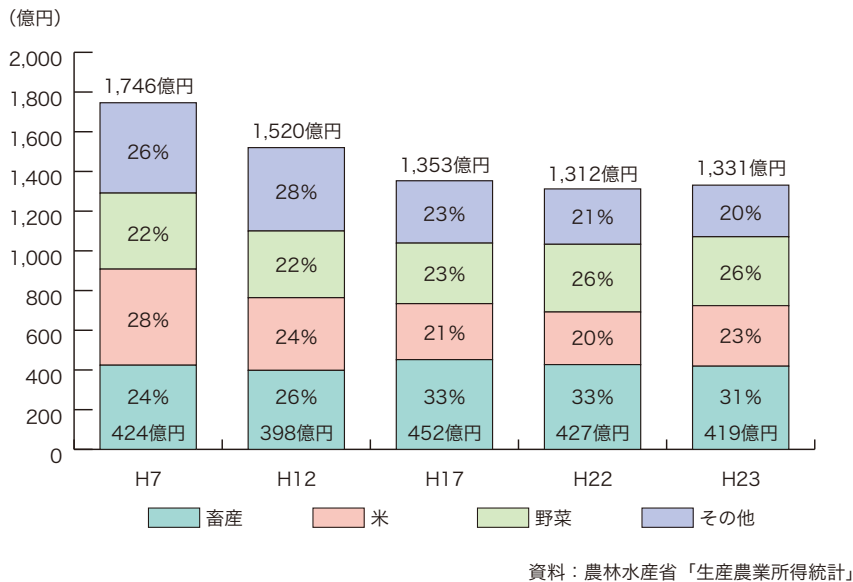
(注) 主業農家：販売農家のうち農業所得が主（農家所得の50%以上が農業所得）で65歳未満の農業従事60日以上の方がいる農家。
 準主業農家：販売農家のうち農外所得が主で65歳未満の農業従事60日以上の方がいる農家。
 副業的農家：販売農家のうち65歳未満の農業従事60日以上の方がいない農家。（主業農家・準主業農家以外の農家）
 自給的農家：経営耕地面積が30a未満かつ農産物販売金額が50万円未満の農家。

(4) 農業労働力の推移（大分県）



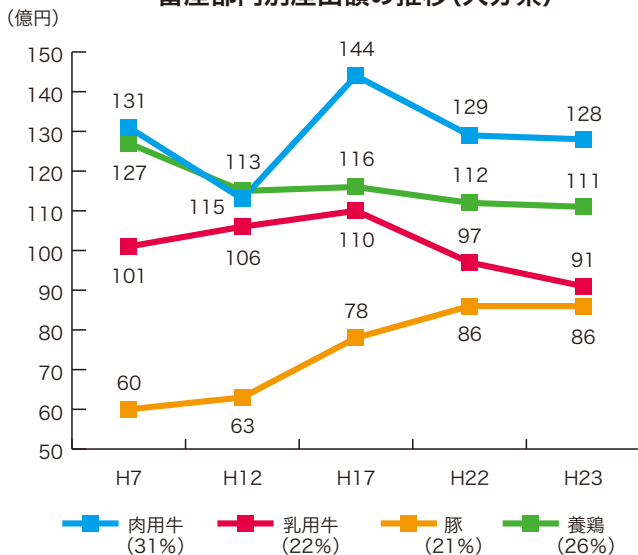
基幹的農業従事者数は、H22年が34,462人で、5年前に比べ98%と、減少傾向が鈍化している。
 65歳未満従事者割合は、H22年が32%で、5年前に比べ6ポイント(2,241人)減少し、全体の3分の1を下回っている。
 平均年齢は、H22年は68歳であり、5年前に比べ2.4歳上昇している。毎年、2歳強上昇しており、現在のペースで高齢化が進むと、H27年には70歳を超える可能性が高い。
 (注) 基幹的農業従事者：農業に主として従事した世帯員（農業就業人口）のうち、調査日前1年間の普段の主な状態が「仕事に従事していた者」のこと。

(5) 農業産出額（大分県）

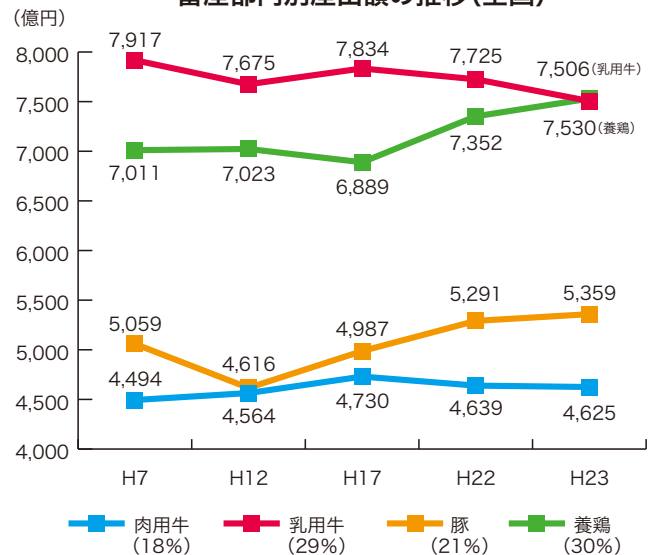


H23年の農業総産出額は1,331億円で、前年に比べ19億円増加した。畜産は419億円で総産出額の31%を占め、前年に比べ8億円減少した。
 農業産出額のうち畜産部門別産出額は、肉用牛は128億円（畜産に占める構成比31%）で、前年に比べ1億円減少した。乳用牛は91億円（同22%）で6億円減少した。豚は、86億円（同21%）で前年から横ばい。養鶏は111億円（同26%）で前年からは1億円減少している。

畜産部門別産出額の推移(大分県)



畜産部門別産出額の推移(全国)



(注) () はH23年の構成比

資料：農林水産省「生産農業所得統計」

2. 畜産の概要

(1) 家畜の飼養戸数・頭羽数（平成24年2月1日）

		大分県		九州			全国		
		実数	対前年比(%)	実数	対前年比(%)	順位	実数	対前年比(%)	順位
肉用牛	戸数	1,730	94.0	28,800	94.9	5	65,200	93.7	10
	頭数	58,400	93.4	975,000	99.1	6	2,723,000	98.6	12
	頭/戸	33.8	99.4	33.9	104.4	4	41.8	105.2	32
乳用牛	戸数	182	94.3	1,970	96.0	6	20,100	95.7	25
	頭数	14,900	98.0	119,700	100.5	5	1,449,000	98.8	17
	頭/戸	81.9	104.0	60.8	104.7	1	72.1	103.2	3
豚	戸数	72	93.5	1,840	101.7	5	5,840	97.2	23
	頭数	154,900	102.2	3,083,000	103.4	5	9,735,000	99.7	19
	頭/戸	2,151.4	109.3	1,675.5	101.6	1	1,667.0	102.6	7
採卵鶏	戸数	41	97.6	554	98.8	6	2,810	95.9	25
	千羽	1,567	108.4	24,104	102.8	6	174,949	99.4	29
	千羽/戸	32.9	111.1	34.7	104.1	4	48.2	103.7	32
ブロイラー	戸数	59	—	1,013	—	5	2,392	—	8
	千羽	2,230	—	49,664	—	5	107,141	—	11
	千羽/戸	37.8	—	49.0	—	6	44.8	—	16

*ブロイラーについては、平成21年2月1日時点の数値を記載。（H22年以降、調査がないため）

（資料：農林水産省「畜産統計」「食鳥流通統計」）

①肉用牛

戸数、頭数ともに全国の上位に位置するが、1戸あたりの飼養規模は全国32位となっている。
また、H23年に比べて、初めて規模が縮小に転じた。

②乳用牛

飼養戸数は182戸、飼養頭数は14,900頭で、前年に比べいずれも減少したが、1戸あたりの飼養頭数は前年比104%増え、九州1位、全国3位の規模となっている。

③豚

戸数は72戸で前年に比べ6.5%減少したものの、頭数は154,900頭と増加しており、1戸あたり飼養頭数は九州1位、全国7位と、規模拡大が進んでいる。

④採卵鶏

戸数は1戸減少したが、羽数は前年比108.4%増羽し、1戸当たり羽数は前年比111.1%増加した。

(2) 認定農業者数（畜産：平成24年3月末時点）

	酪農		肉用牛		養豚		養鶏		その他		計	
	実数	対前年比	実数	対前年比	実数	対前年比	実数	対前年比	実数	対前年比	実数	対前年比
単一経営	127	87%	182	91%	42	89%	51	89%	2	皆増	404	90%
稲作との複合経営	12	109%	168	92%	4	80%	1	皆増	0	—	185	93%
その他複合経営	40	114%	135	96%	5	167%	6	150%	1	100%	187	102%
小計	179	93%	485	93%	51	93%	58	95%	3	300%	776	93%
法人化率	24.6%		4.5%		58.8%		32.8%		66.7%		15.1%	

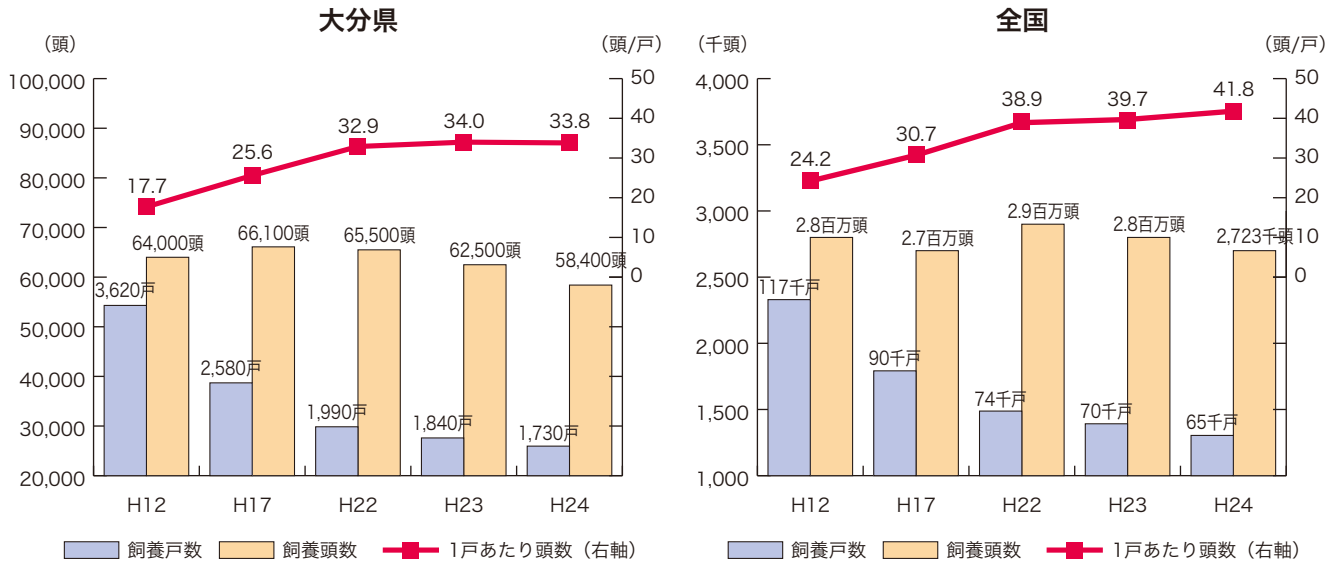
（資料：大分県）

畜産の認定農業者数は776戸で、高齢化に伴う再認定の辞退や廃業により、前年比93%と減少した。
法人化率は15.1%で、県全体の法人化率11.5%より高いが、家族経営が中心となっている肉用牛は4.5%で、他の部門に比べて低い。

II 家畜別の動き

1. 肉用牛

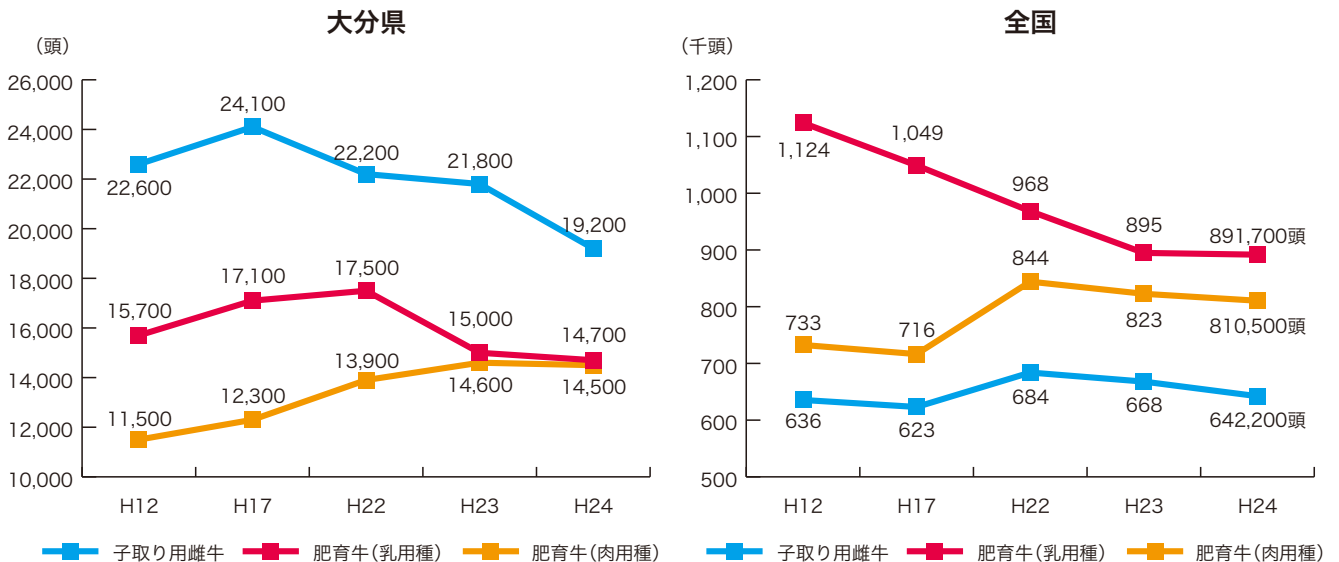
(1) 飼養戸数・頭数の推移



資料：農林水産省「畜産統計」

H24年2月1日現在の飼養戸数は1,730戸で前年に比べ110戸（6%）減少した。高齢化や大規模農家の廃業で毎年減少しており、H12年に比べ半減している。
 飼養頭数は58,400頭で、前年に比べ4,100頭（7%）減少し、S54年以降初めて6万頭を下回った。
 大規模経営体の廃業等により、子取り用雌牛が大幅に減少（▲2,600頭）したことが大きな要因である。
 1戸あたりの飼養頭数は毎年増加していたが、H24年は33.8頭で、前年に比べわずかに減少した。

(2) 用途別頭数の推移

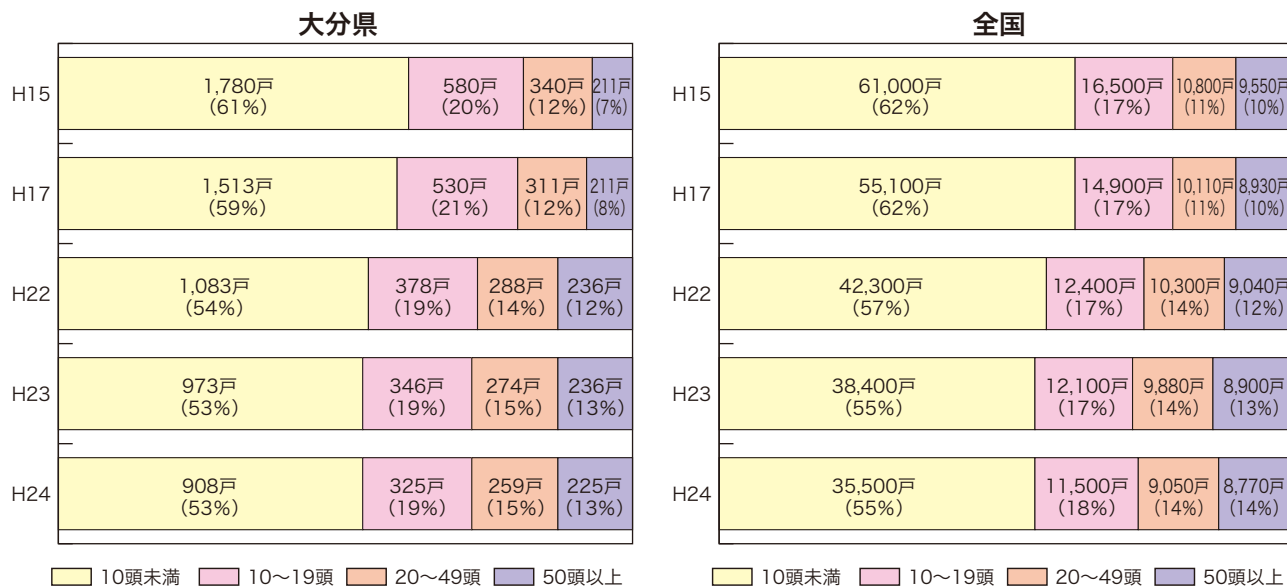


資料：農林水産省「畜産統計」

(注1) 子取り用雌牛：子牛の生産を目的として飼養している雌牛（過去に種付けしたことのある牛及び近い将来種付けをすることが確定している牛。）
 (注2) 肥育牛：肉牛販売を目的に飼養している牛。したがって、ほ育・育成中の牛でも引き続き自家で肥育する予定のものは肥育牛とする。

子取り用雌牛は19,200頭で、大規模繁殖牧場の廃業等により前年に比べ2,600頭（12%）減少した。
 肥育牛（肉用種）は、14,500頭で前年に比べ100頭減少したが、H21年以降、大規模経営体の新規参入等で増加に転じ、この5年間で2,700頭増加した。
 肥育牛（乳用種）は、14,700頭で前年に比べ300頭（2%）減少した。輸入牛肉との競合による価格の低迷等の影響で、H19年をピークにこの5年間で3,700頭（20%）減少している。

(3) 規模別飼養戸数の推移

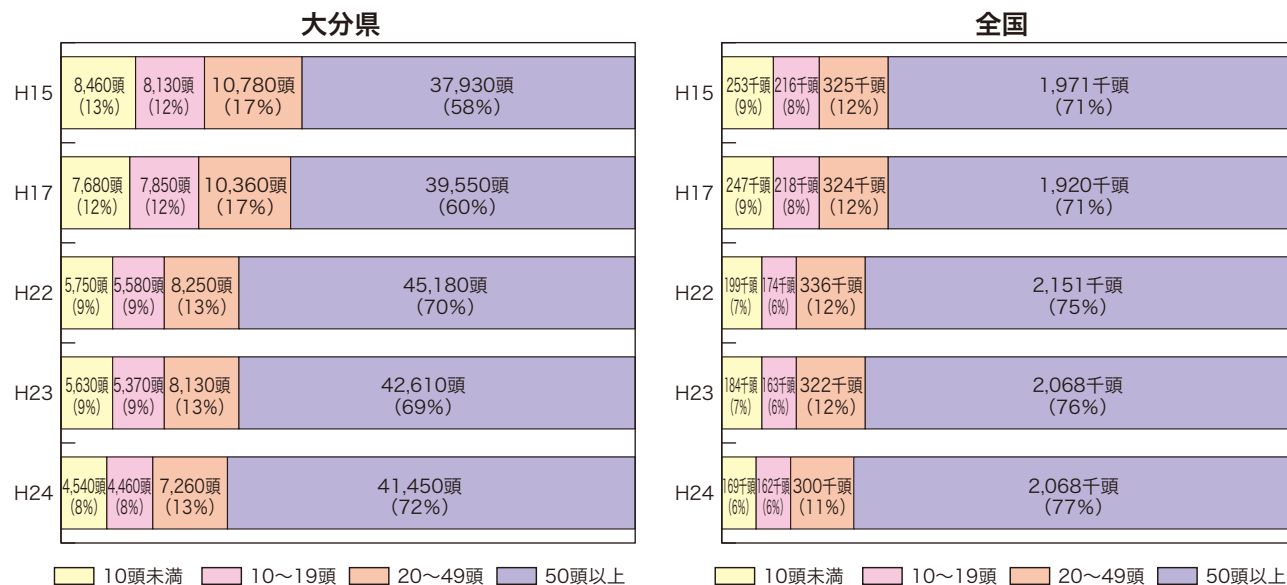


資料：農林水産省「畜産統計」

(注) 学校・県機関等の非営利的な飼養者は含まない

H17年に比べ、10頭未満の戸数割合は59%から53%へと減少し、50頭以上が8%から13%へ増加しており、規模拡大が進んだが、ここ数年は、各階層の占める割合に大きな変化は見られず、大規模化のペースが鈍化している。

(2) 規模別飼養頭数の推移

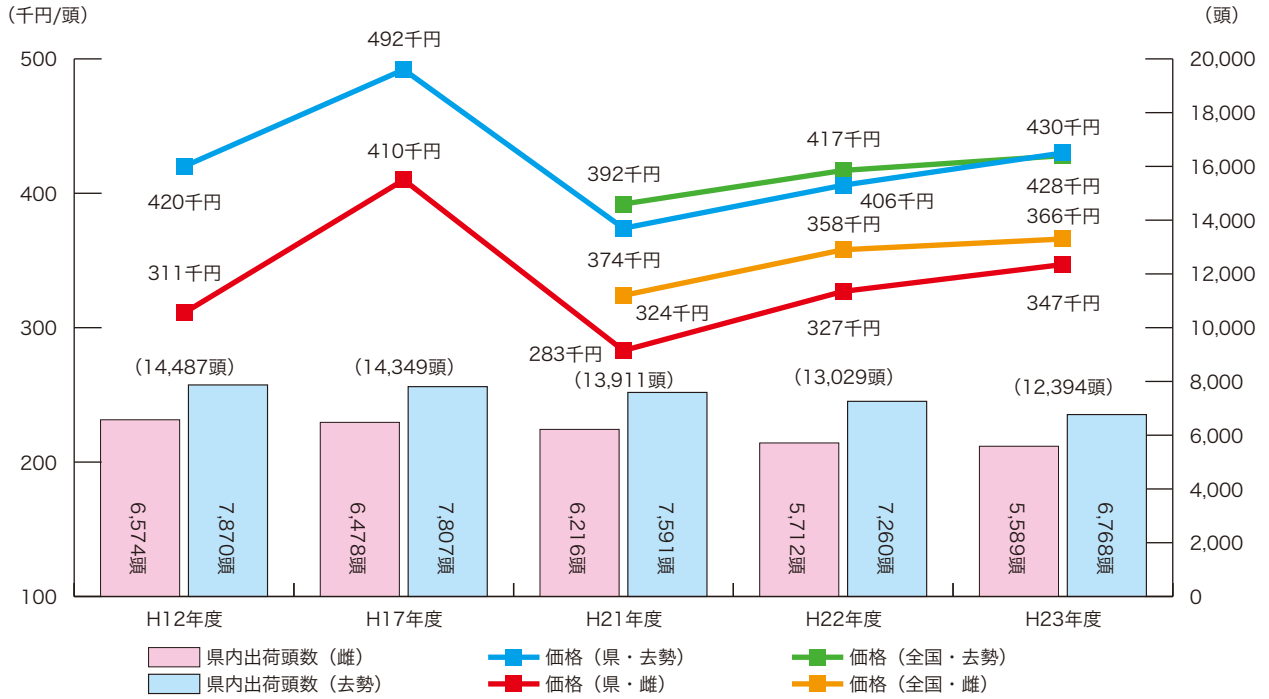


資料：農林水産省「畜産統計」

(注) 学校・県機関等の非営利的な飼養者は含まない

50頭以上の農家の飼養頭数割合は、H15年の58%からH24年には72%に増加したが、飼養頭数は、H22年に45千頭を超えていたものがH24年には41千頭に減少しており、規模拡大のペースが鈍化している。

(5) 子牛市場出荷頭数・平均価格の推移



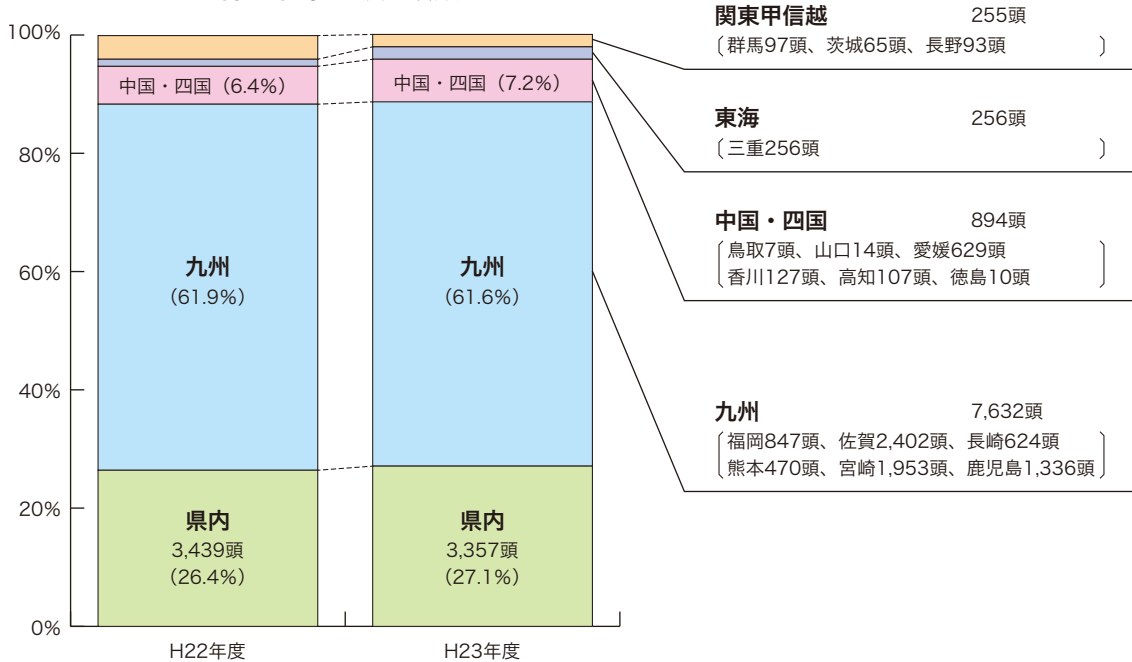
資料：全農大分県本部

(注) グラフ内「去勢」頭数には「雄」頭数を含まず、()内出荷合計頭数には「雄」頭数を含むため、合計頭数は一致しない

H23年度の県内出荷頭数は12,394頭で、前年に比べ635頭(7%)少なく、出荷頭数は毎年減少している。
H23年度の市場平均価格は、雌・去勢ともにH21年度の底値から徐々に回復している。
全国平均との価格差は縮小しており、H23年度の去勢価格は全国平均を上回った。

(6) 肉用子牛(黒毛和種)の流通

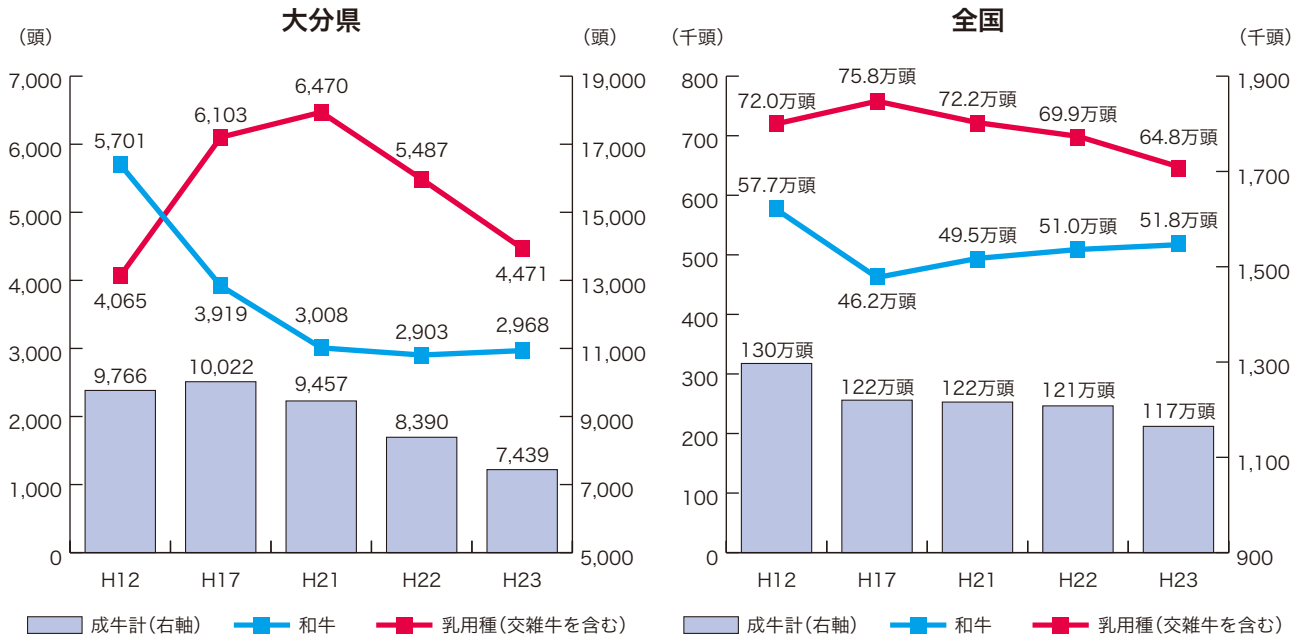
都道府県別販売頭数



資料：全農大分県本部

H23年度の県内販売頭数は3,357頭で、総出荷頭数12,394頭の27.1%であった。
県内向け販売頭数割合は前年比0.7ポイント上昇したものの、頭数は82頭減少した。
地域別では九州向けが7,632頭(61.6%)と最も多く、県外販売頭数のうち84.5%を占めている。
県別では、佐賀県が2,402頭(19.4%)と最も多く、次いで宮崎県1,953頭(15.8%)、鹿児島県1,336頭(10.8%)であった。

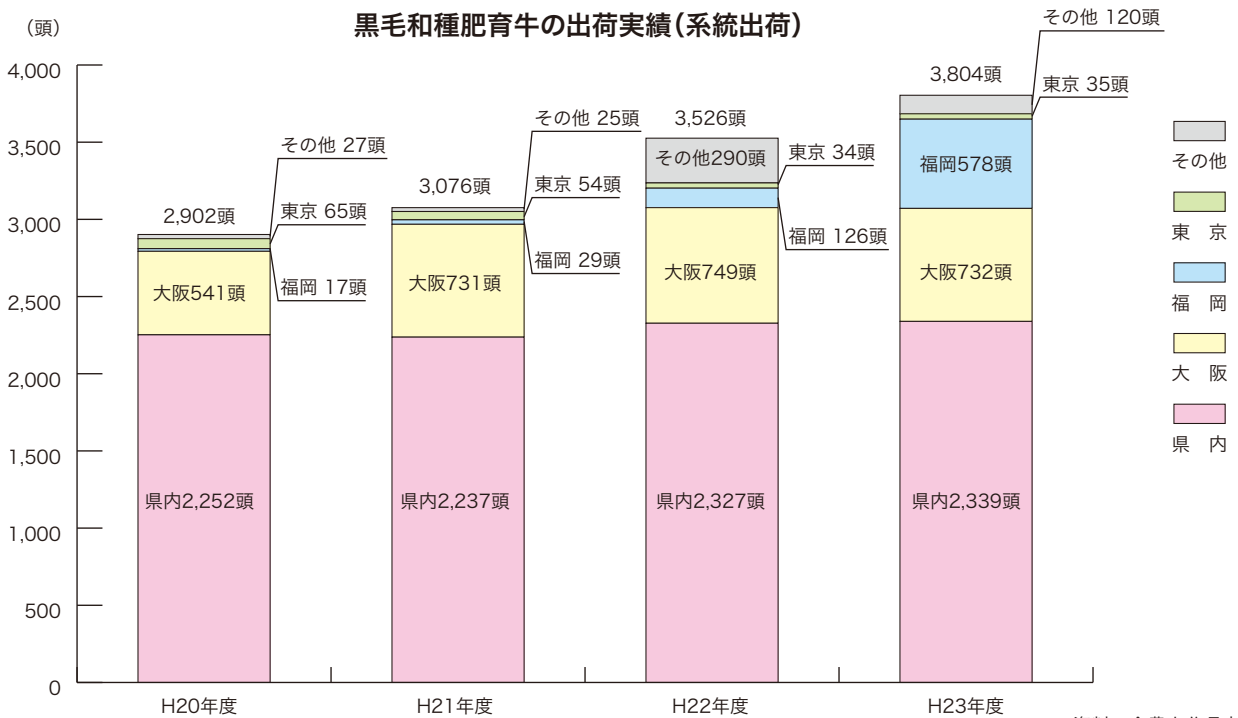
(7) 肉用牛県内と畜頭数の推移



資料：農林水産省「畜産物流通統計」

H23年の成牛と畜頭数は7,439頭で、前年比11%、H21年比21%減少し、乳用種（交雑牛を含む）の減少頭数が多い。和牛と畜頭数はH22年まで減少が続いたが、H23年は2,968頭（前年比102%）とわずかながら増加した。県内の和牛肥育頭数は増加しており、県外への出荷頭数が増加している。H23年の乳用種（交雑牛を含む）と畜頭数は4,471頭（うち乳牛2,678頭）で、前年の5,487頭（うち乳牛2,847頭）に比べ、19%減少した。

(8) 県産肉用牛（黒毛和種肥育牛）の流通

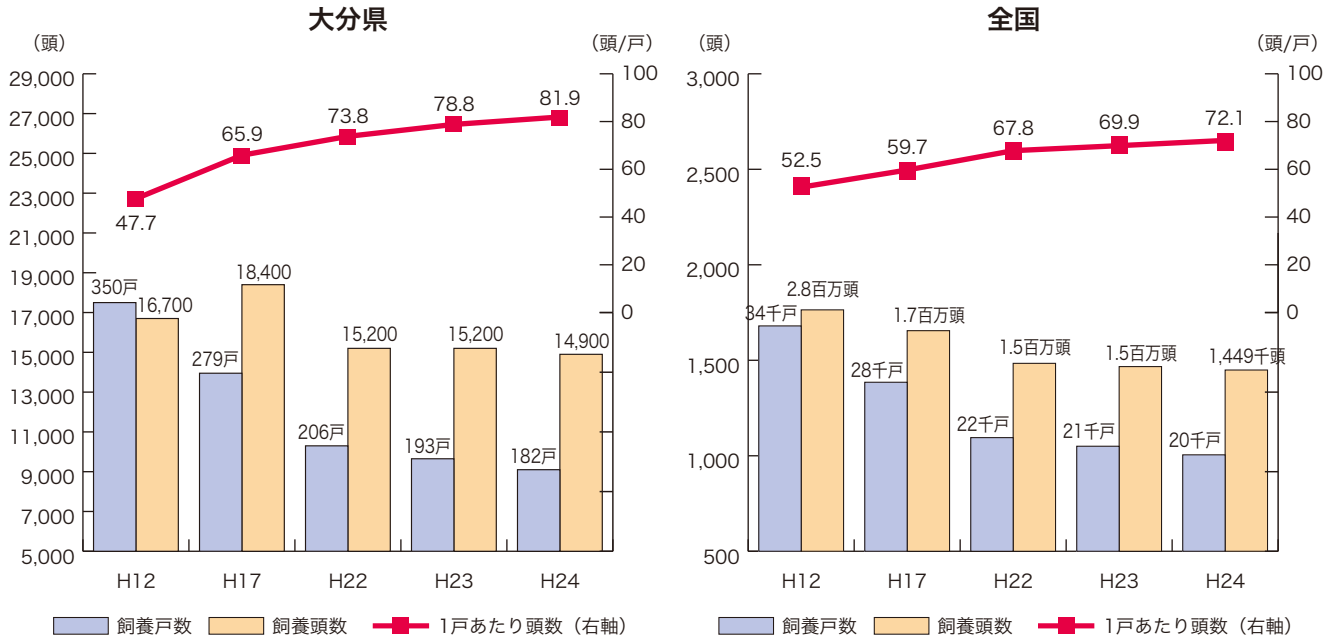


資料：全農大分県本部

H23年度の黒毛和種肥育牛の出荷頭数（系統出荷）は3,804頭で、前年比108%、前々年比124%と、年々増加しており、特に県外への出荷頭数が増えている。都道府県別の仕向け頭数は、大阪の出荷頭数が最も多く、県外出荷の57%を占める。近年は、福岡向けが大幅に増え、23年度は578頭と前年に比べ約5倍に増加した。

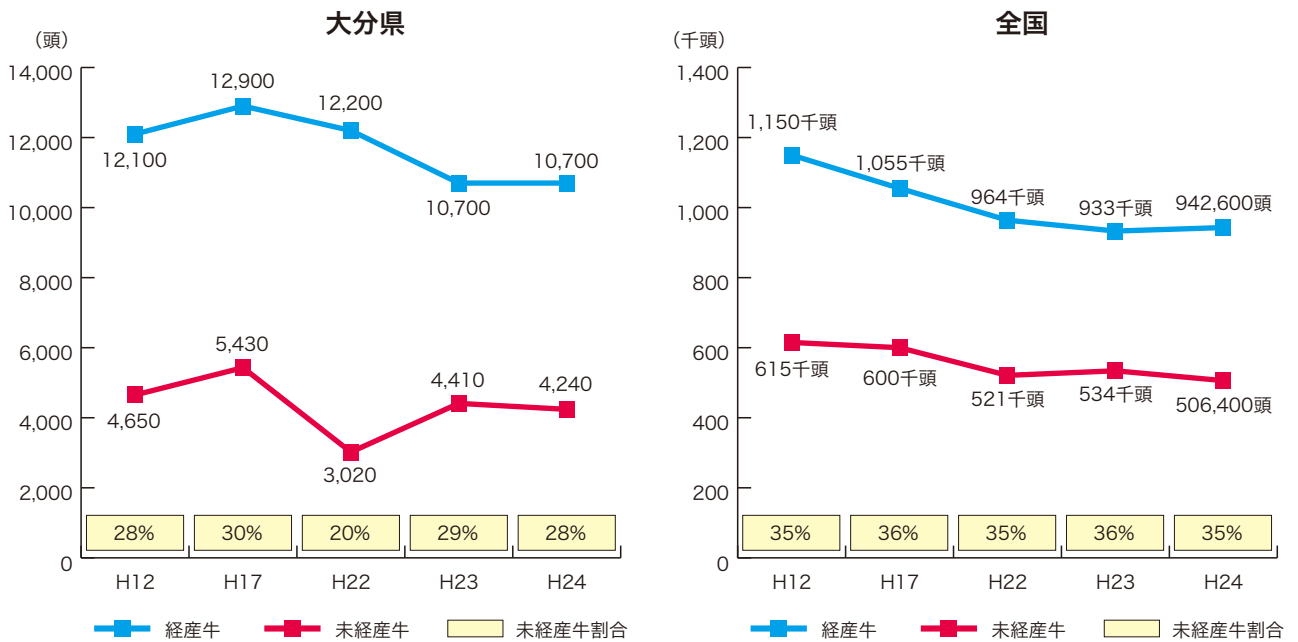
2. 乳用牛

(1) 飼養戸数・頭数の推移



H24年2月1日現在の飼養戸数は182戸で前年に比べ11戸減少した。毎年減少を続けており、H12年比で52%まで減少している。
 飼養頭数は前年に比べ300頭（2%）減少し14,900頭となった。H17年は18,400頭であったが、生産調整等の影響により、H17年比81%まで減少している。
 1戸あたり飼養規模は順調に拡大しており、H12年は全国平均を下回っていたが、その後は常に上回っている。

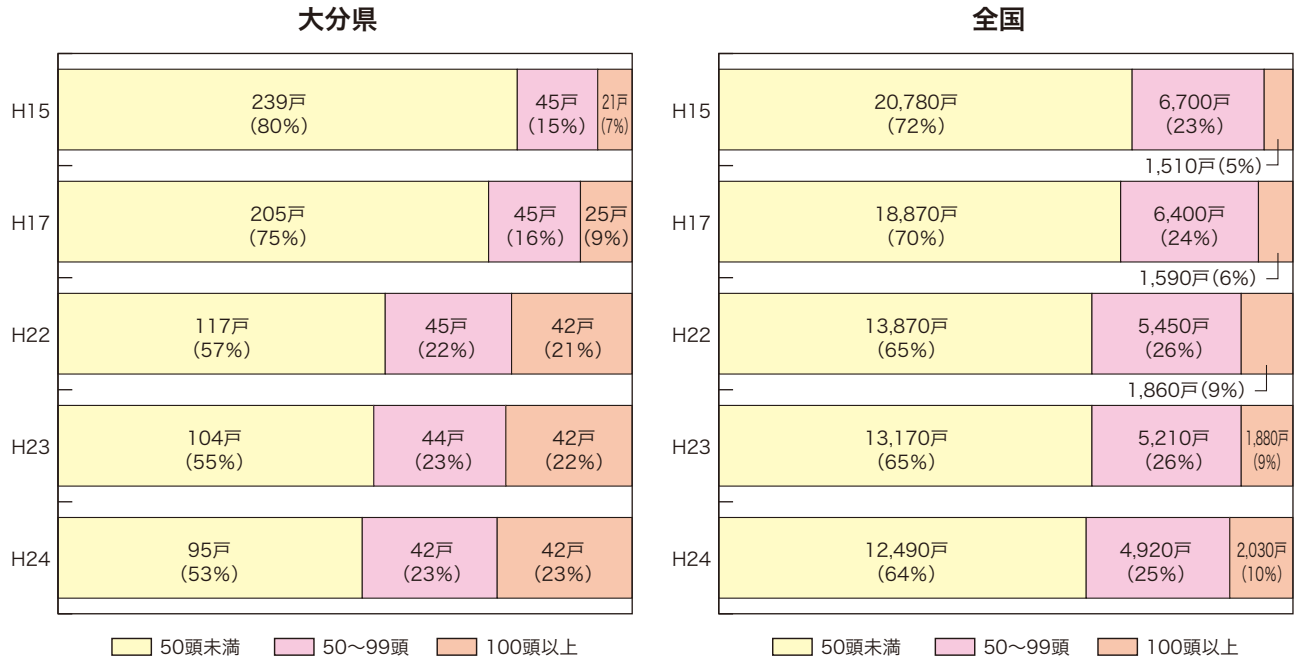
(2) 用途別頭数の推移



(注1) 搾乳牛：経産牛のうち、搾乳中の牛のこと。
 (注2) 乾乳牛：経産牛のうち、搾乳していない牛のこと。分娩前乾乳と空胎乾乳がある。
 (注3) 未経産牛：出生してから分娩するまでの牛で、生後30ヶ月位までが主体。

大分県は全国に比べ未経産牛割合が低く、H22年には未経産牛割合が20%まで低下した。
 その後、上昇しH24年は28%と、H17年水準まで回復している。

(3) 成畜飼養頭数規模別飼養戸数の推移

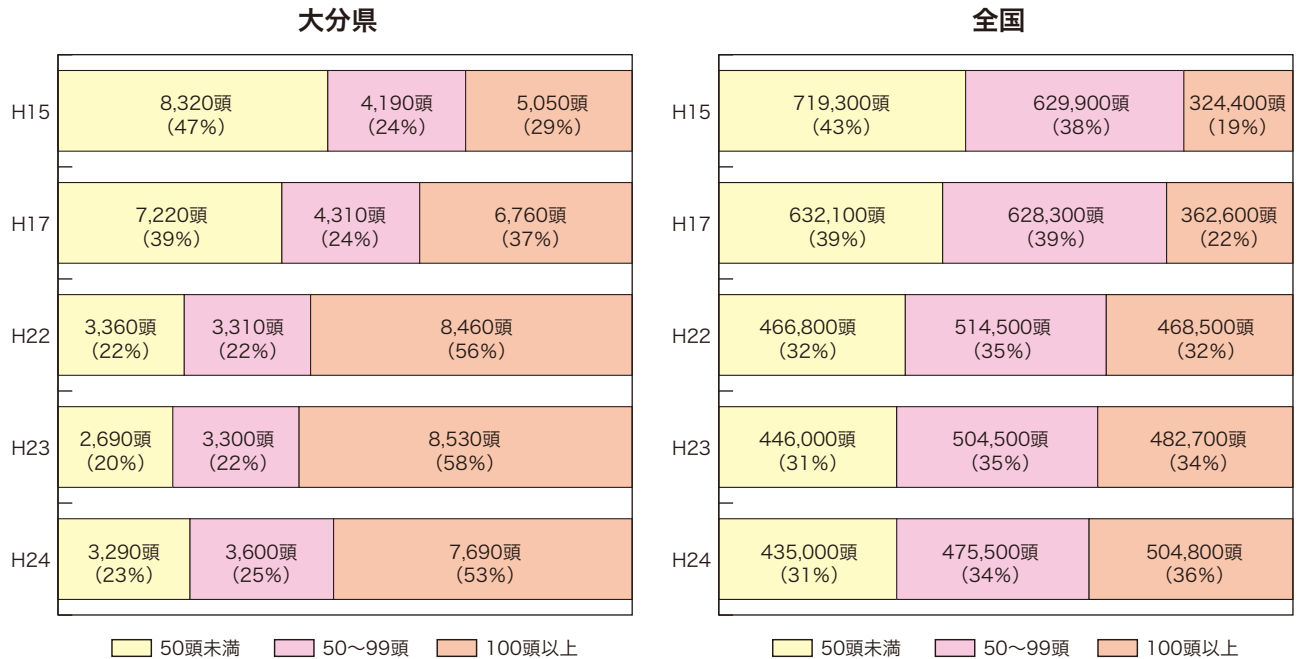


資料：農林水産省「畜産統計」

(注) 学校・県機関等の非営利的な飼養者は含まない

H24年の100頭以上の戸数割合は23%で、全国の同割合10%を大きく上回っている。
しかし戸数は、前年、前々年に比べ増減がなく、生産調整下で規模の拡大が進んでいない。

(4) 成畜飼養頭数規模別飼養頭数の推移

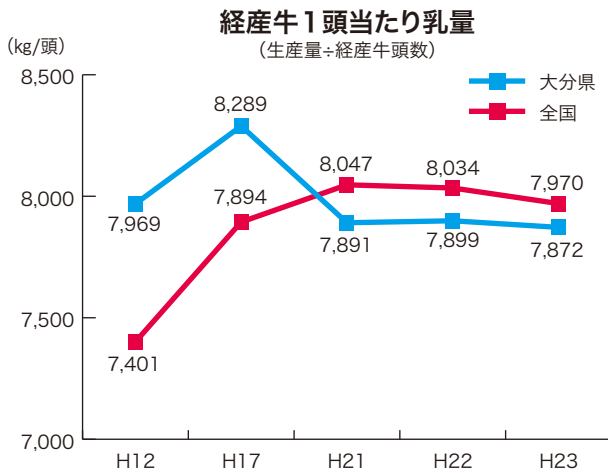
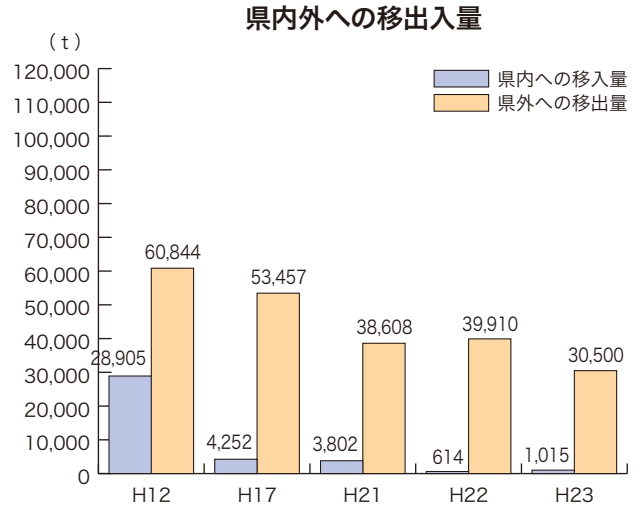
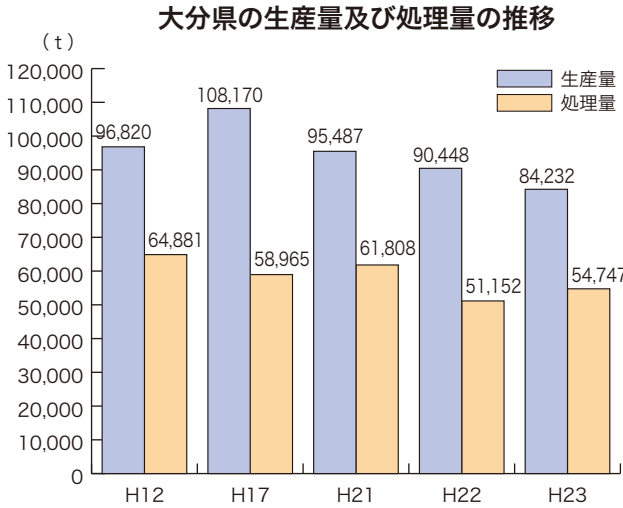


資料：農林水産省「畜産統計」

(注) 学校・県機関等の非営利的な飼養者は含まない

H24年の100頭以上の飼養頭数は、7,690頭と前年に比べ840頭（10%）減少し、飼養頭数割合も前年の58%から53%へ低下した。
全国では100頭以上の飼養頭数及び割合は前年に比べ増加しているものの、その割合は36%で、大分県が大きく上回っている。

(5) 生乳生産量・処理量の推移



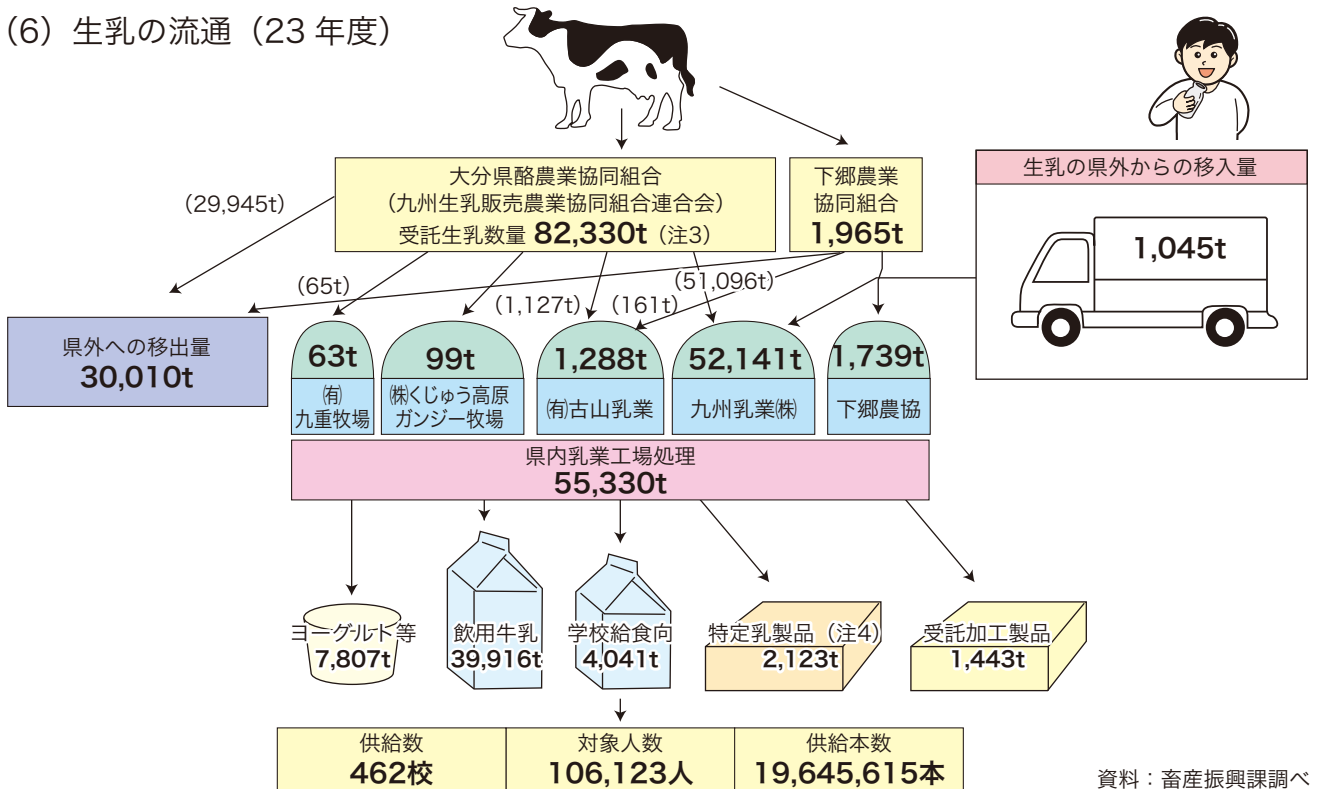
①生産量及び処理量
生産調整開始後、生産量は年々減少しているが、県内処理量は、H23年にやや増加している。

②県内外への移出入量
大分県は移入量に比べ移出量の多い輸出県だが、H12年には6万トン強あったものが、H23年3万トン強まで半減している。

③経産牛1頭あたり乳量
H17年までは全国平均を大きく上回っていたものの、生産調整開始後、飼養頭数と乳量枠のバランスが崩れ、全国平均を下回っている。

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」より

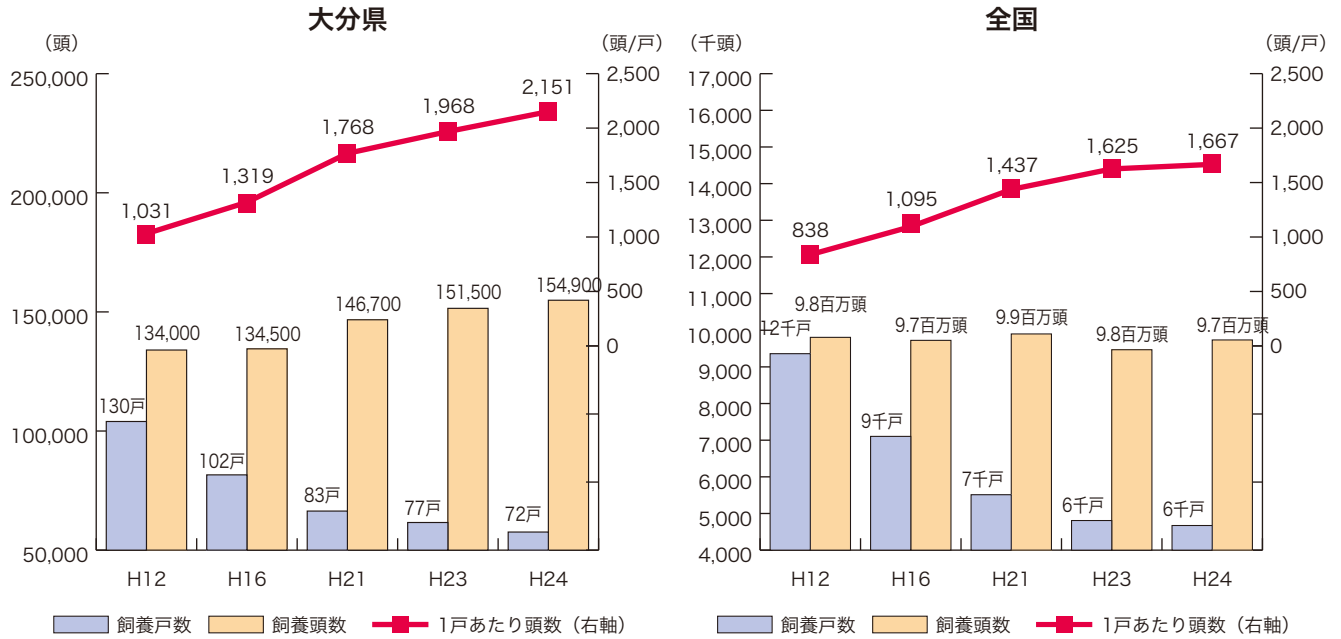
(6) 生乳の流通 (23年度)



資料：畜産振興課調べ

3. 豚

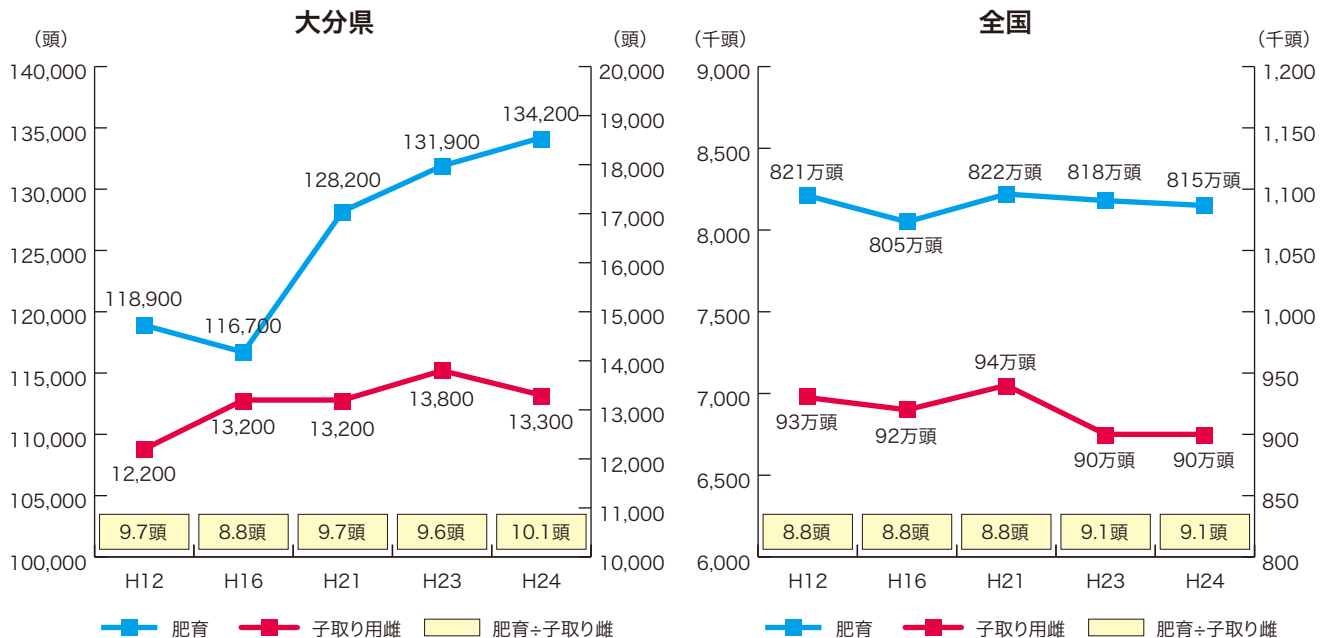
(1) 飼養戸数・頭数の推移



資料：農林水産省「畜産統計」

飼養戸数は72戸で、前年に比べ5戸（7%）減少し、H12年比で55%まで減少したが、飼養頭数は154,900頭と、全国が横ばいの中、前年比3,400頭（2%）増加し、H12年比では116%まで増加した。1戸あたり頭数においても全国と比べ規模拡大が進み、H24年は2千頭を超え、H12年比で209%と倍増した。

(2) 用途別頭数の推移



資料：農林水産省「畜産統計」

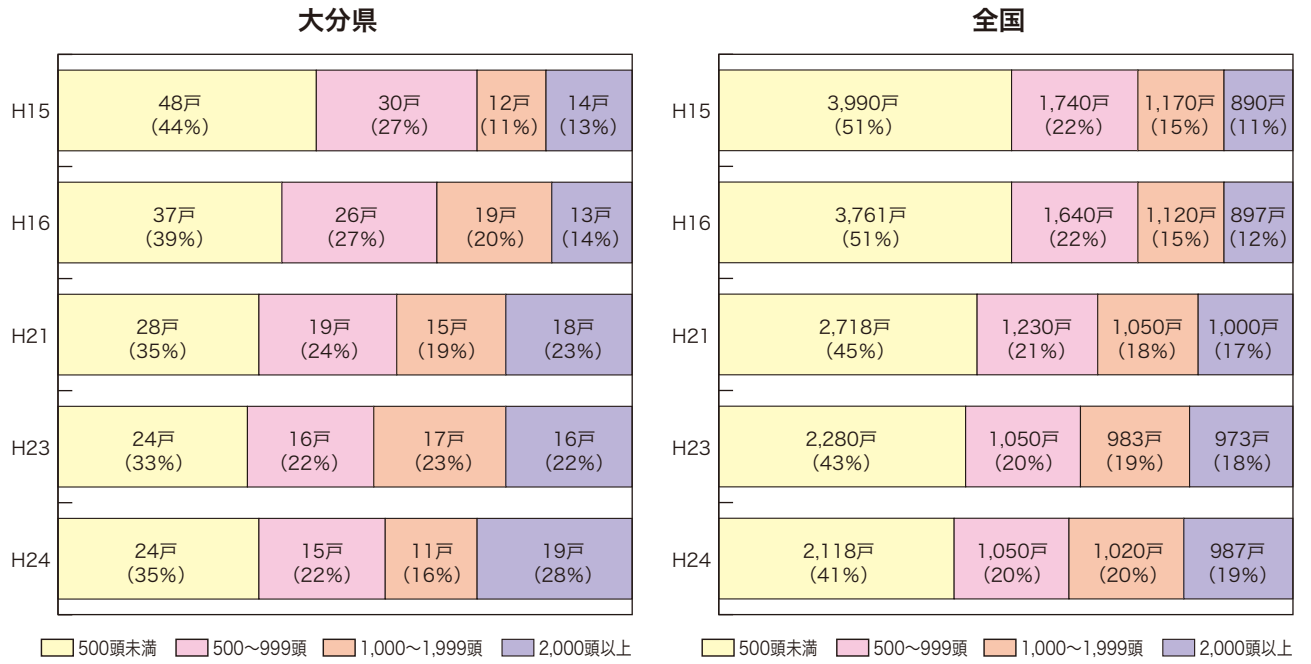
(注1) H17年及びH22年はセンサス実施年のため未公表

(注2) 子取り用めす豚とは生後6ヶ月以上で子豚を生産することを目的としているめす豚のこと。

実際には過去に種付けたことのある豚及び近い将来種付けることが確定している豚のこと。

子取り用めす豚は13,300頭で前年に比べ、500頭（4%）減少したが、1戸あたりの飼養頭数は225.4頭で、前年に比べ6%増加した。肥育豚は134,200頭で前年比1.7%増加した。肥育豚を子取り用めす豚で、控除した値は全国平均を上回っている。

(3) 肥育豚飼養頭数規模別飼養戸数の推移

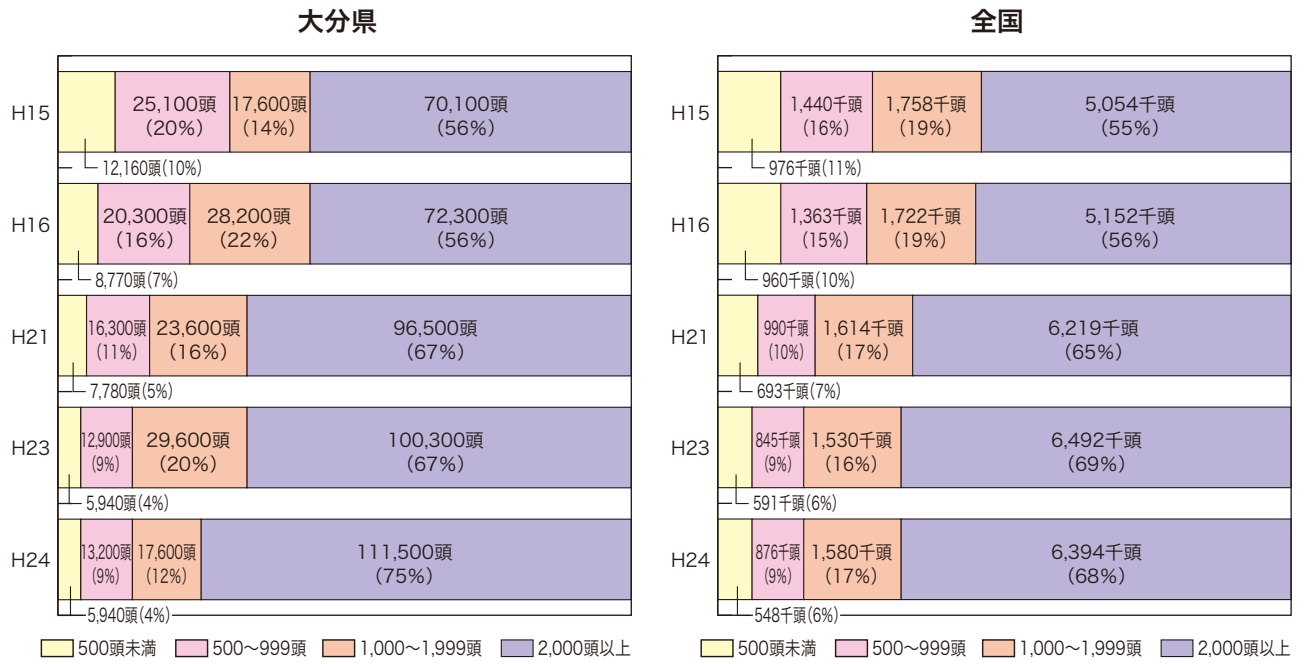


資料：農林水産省「畜産統計」

(注1) 肥育豚：肉豚として販売することを目的としている豚をいい、もと豚として販売するものは含まない。
 (注2) 学校・県機関等の非営利的な飼養者は含まない

2,000頭以上の農家戸数割合はH15年の13%からH24年は28%まで増加し、全国の19%より高く、大規模農家の割合が高い。

(4) 肥育豚頭数規模別飼養頭数の推移

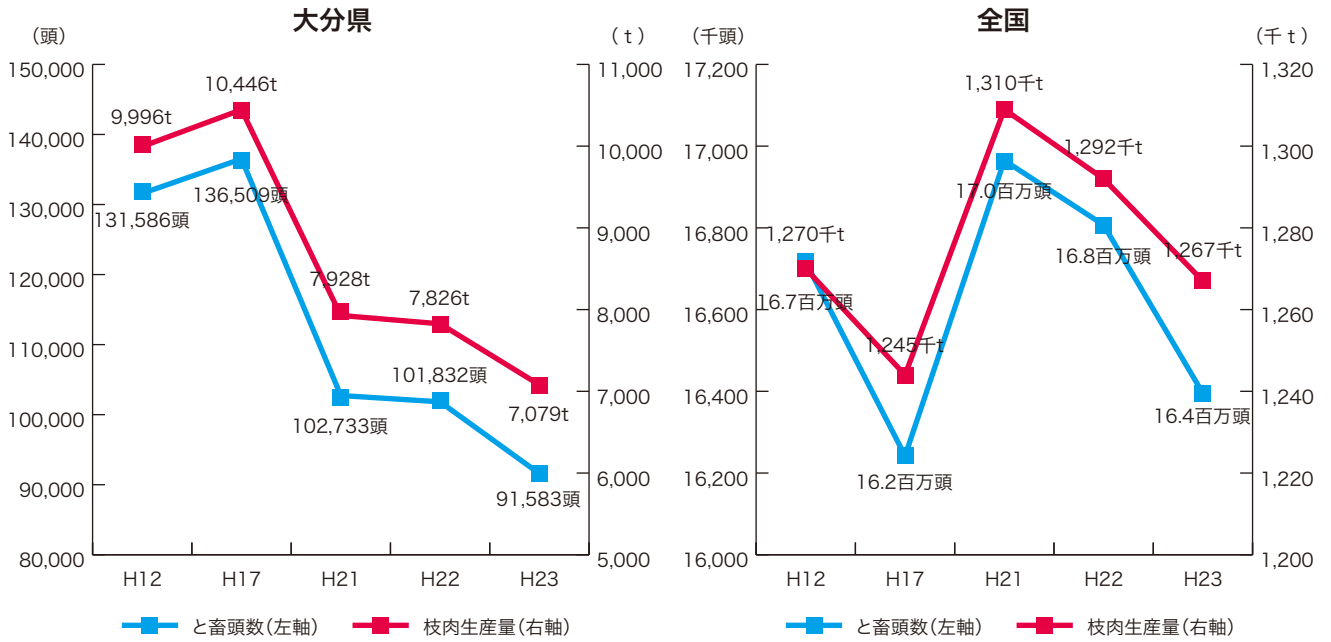


資料：農林水産省「畜産統計」

(注1) 肥育豚：肉豚として販売することを目的としている豚をいい、もと豚として販売するものは含まない。
 (注2) 学校・県機関等の非営利的な飼養者は含まない

2,000頭以上の農家の飼養頭数割合は、H15年の56%からH24年には75%まで大幅に増加し、全国の68%より高く、規模拡大が進んでいる。

(5) 肉豚のと畜及び枝肉の生産状況

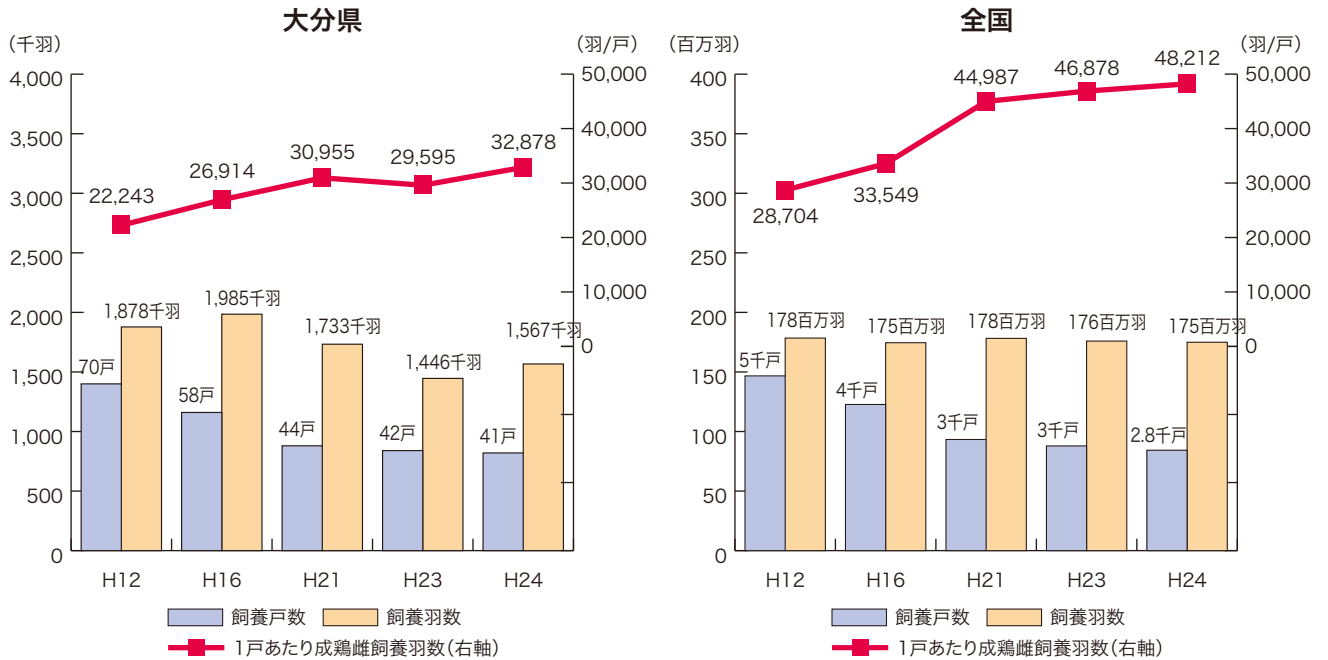


資料：農林水産省「畜産物流通統計」

H24年のと畜頭数は、91,583頭で、前年に比べ10,249頭（10%）減少し、H12年比で70%まで減少している。一方、肥育頭数はH24年は134,200頭で、前年に比べ2,300頭（2%）増加していることから、県外でのと畜頭数が増加している。

4. 採卵鶏

(1) 飼養戸数・羽数の推移

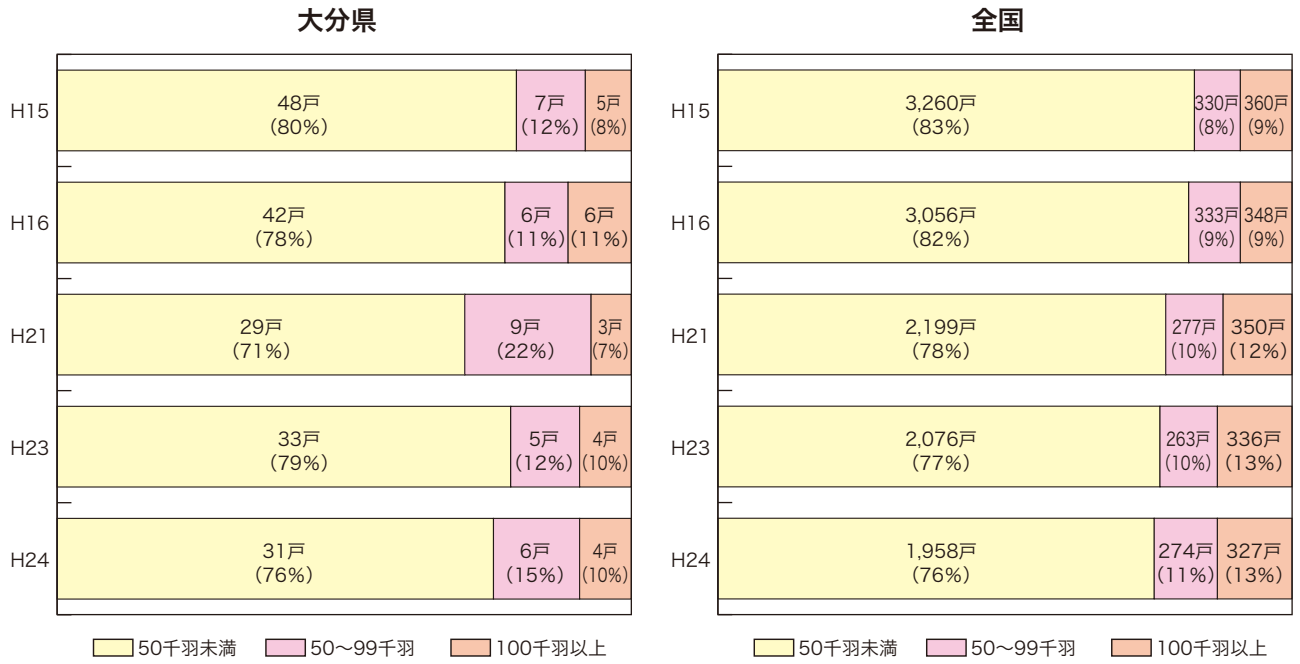


資料：農林水産省「畜産物流通統計」

(注) 飼養戸数・羽数は種鶏のみの飼養戸数、種鶏の飼養羽数を除き、成鶏雌羽数は1,000羽未満の飼養戸数・羽数を除く。H17・22年はセンサス年のため調査無し。

H24年の飼養戸数は41戸で、前年に比べ1戸減少し、飼養羽数は1,567千羽で121千羽（8%）増加した。1戸あたり成鶏雌飼養羽数は、H23年にやや減少したものの、H24年は3,283羽（11%）増え32,878羽となった。一方、全国の1戸あたり成鶏雌飼養羽数はH24年が48,212羽であり、大分県を大きく上回っている。

(2) 成鶏めす羽数規模別飼養戸数の推移

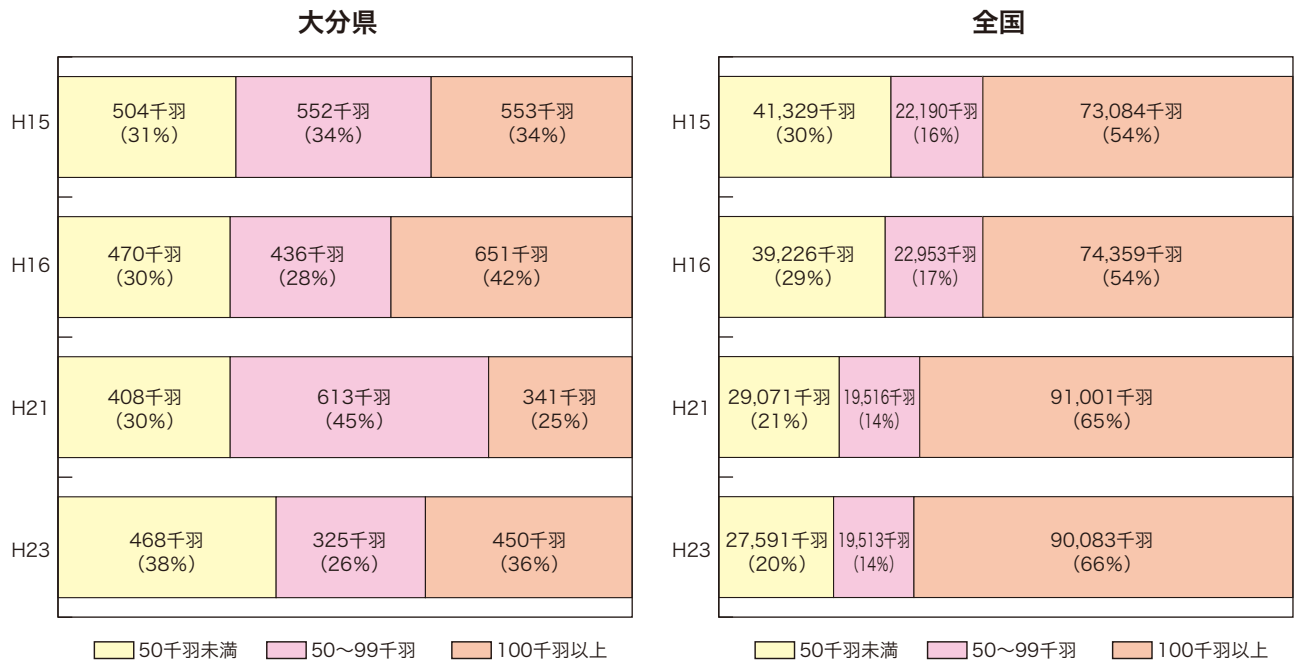


資料：農林水産省「畜産物流通統計」

(注1) 戸数には1,000羽未満の飼養戸数は含まない。
 (注2) 学校・県機関等の非営利的な飼養者は含まない

年により若干の増減はあるものの、各階層の飼養戸数割合にはここ数年大きな変化はない。
 100千羽以上の戸数割合は、H24年が10%で、全国（13%）をやや下回っている。

(3) 成鶏めす羽数規模別成鶏めす飼養羽数の推移

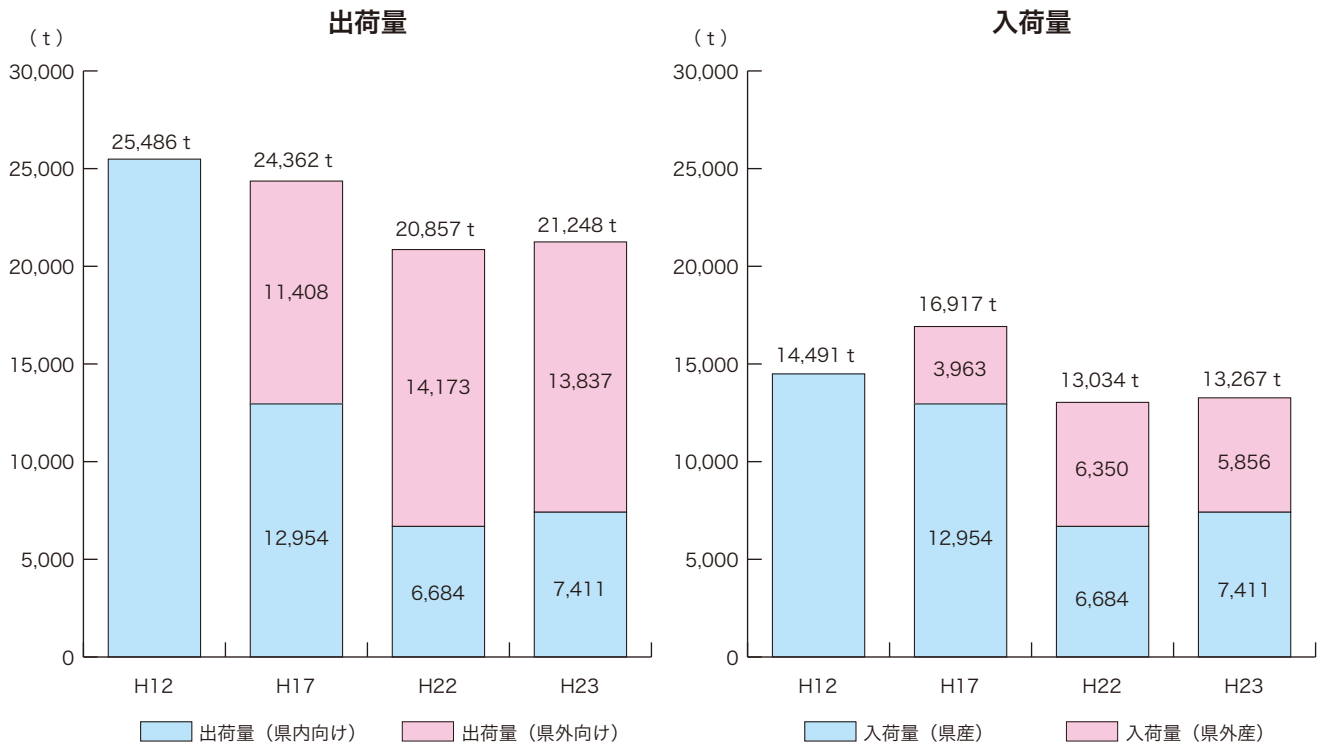


資料：農林水産省「畜産物流通統計」

(注1) 戸数には1,000羽未満の飼養戸数は含まない。
 (注2) 学校・県機関等の非営利的な飼養者は含まない

H23年の100千羽以上の羽数割合は36%で、H21年に比べ11%増加したが、全国の66%を大きく下回っている。

(4) 鶏卵の流通状況



資料：農林水産省「畜産物流通統計」

(注1) H12年は県内、県外の別が分からないため、出荷量又は入荷量の合計のみを記載

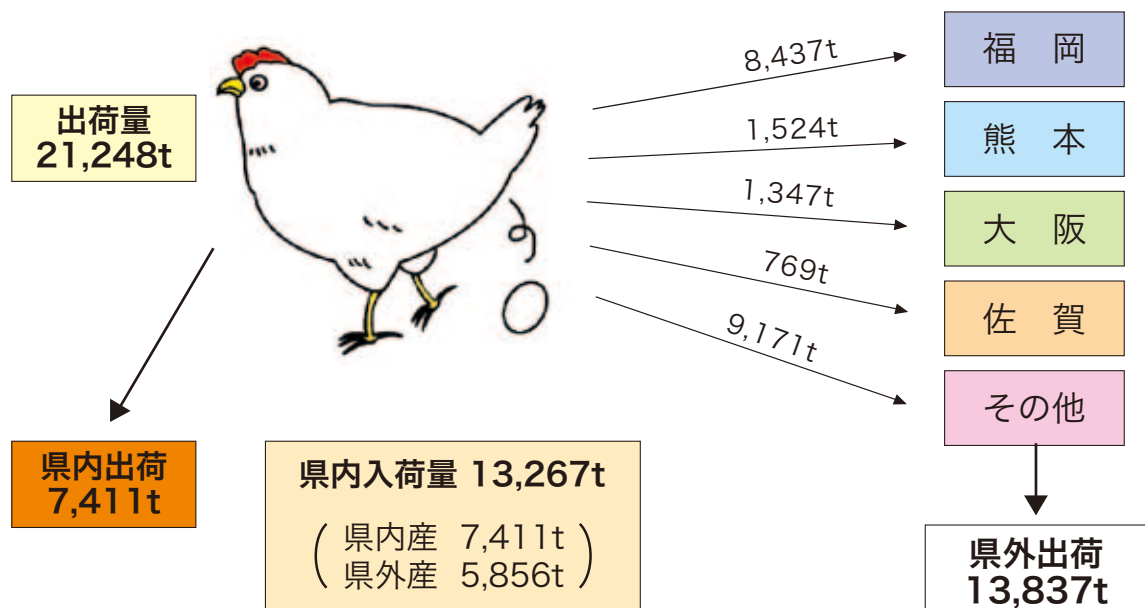
(注2) 鶏卵生産量：一般用食用、加工用、種卵等として生産された鶏の卵をいう。

(注3) 鶏卵出荷量：一般用食品及び加工用として販売した鶏卵の数量をいい、生産者が自家消費した数量及び種卵、その他の数量は出荷量に含まれない。

出荷量は減少傾向にあるものの、H23年は前年に比べ391t (2%) 増加した。

出荷量の過半数は県外向けで、H23年は13,837tで全体の65%を占めている。

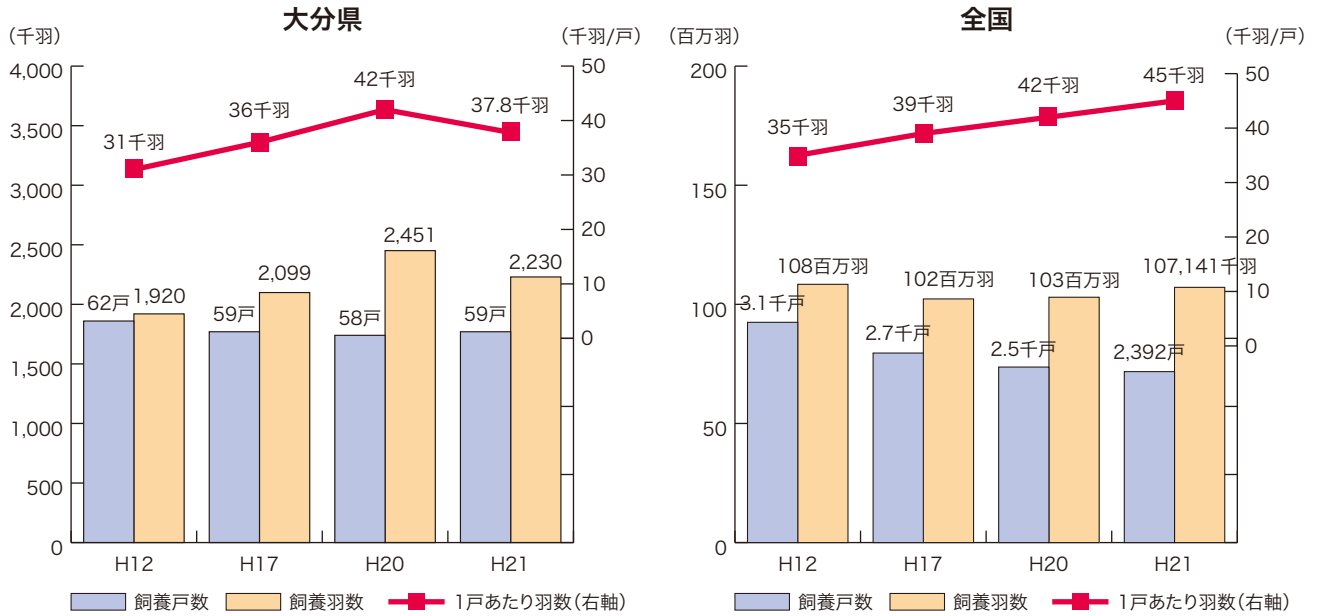
入荷量も減少傾向にあるものの、H23年は13,267tで、前年に比べ233t (1.8%) 増加した。そのうち44%が県外産である。



資料：農林水産省「畜産物流通統計」

5. プロイラー

(1) 飼養戸数・羽数の推移



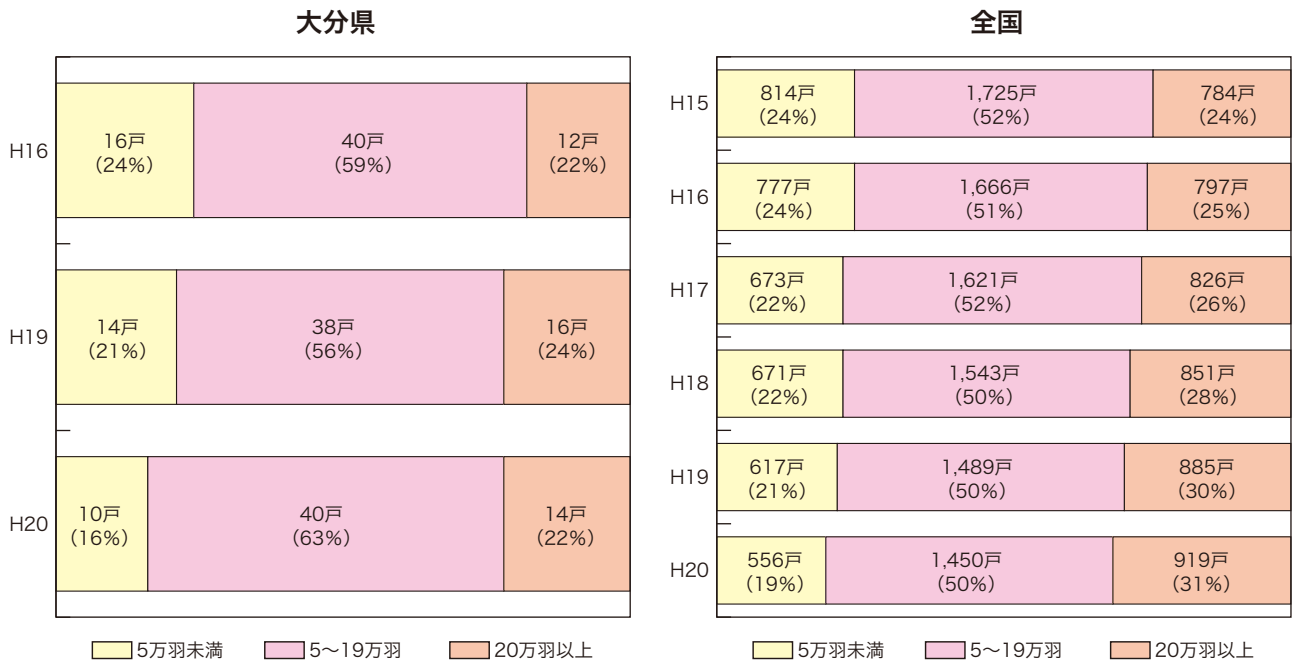
資料：農林水産省「食鳥流通統計」

(注1) この統計は、2月1日現在のプロイラー飼養戸数及び飼養羽数を調査したもので、一時的に鶏舎消毒のためオールアウトしていた等により、プロイラーを飼養していない飼養者は除外したものである。H22年以降は公表数値がない。

(注2) H22年以降は調査がないため、H21年までの数値を記載。

飼養羽数は増加傾向にあったが、H21年は2,230千羽で、前年に比べ221千羽（9%）減少した。
1戸あたり飼養羽数もH21年には37.8千羽と、H20年に比べ4.5千羽（11%）減少し、全国の45千羽を下回っている。

(2) 出荷羽数規模別出荷戸数の推移



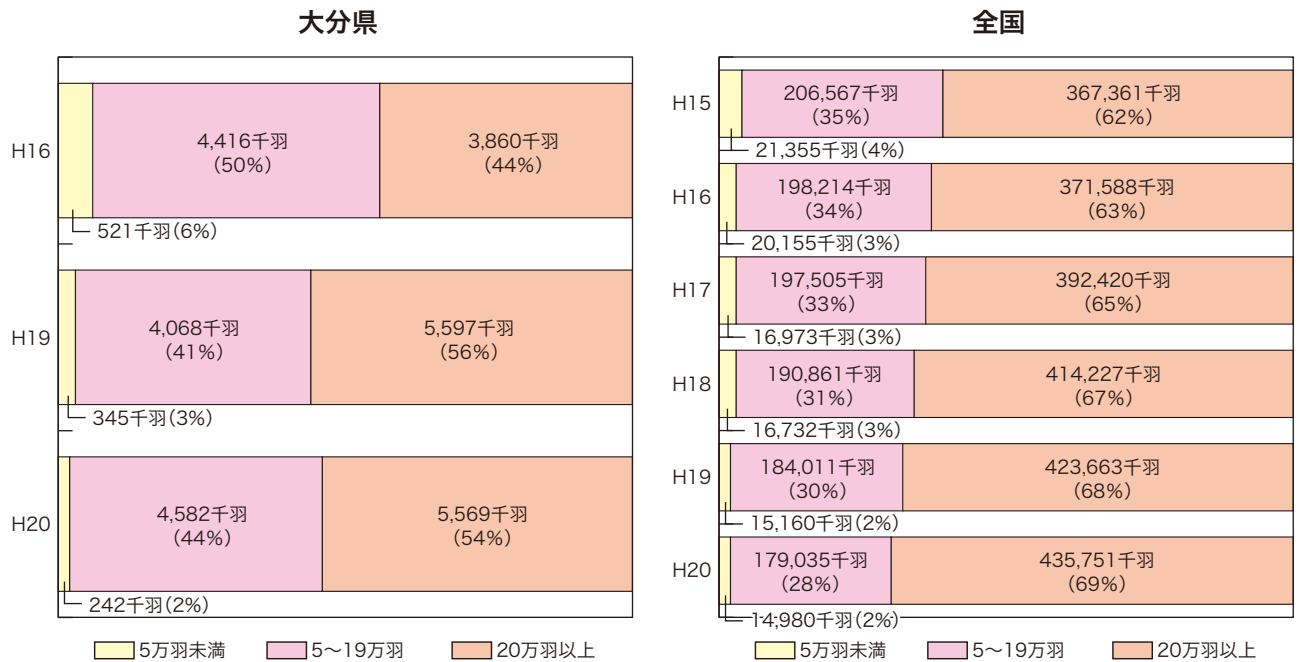
資料：農林水産省「食鳥流通統計」

(注1) H15、H17、H18年大分県数値は、一部に非公表数値があったためグラフから除外。当該非公表は少数調査農家の秘密保護を目的として行われるもの。

(注2) H21以降は当該調査は実施されていない。

H20年の20万羽以上の戸数は14戸で、H19年に比べ2戸減少した。
全国では20万羽以上が31%を占めており、毎年、規模拡大が進んでいる。

(3) 出荷羽数規模別出荷羽数の推移



資料：農林水産省「食鳥流通統計」

(注1) H15,H17,H18年大分県数値は、一部に非公表数値があったためグラフから除外。
当該非公表は少数調査農家の秘密保護を目的として行われるもの。

(注2) H21以降は当該調査は実施されていない。

H20年の20万羽以上の飼養羽数は5,569千羽であり、前年に比べ28千羽（0.5%）減少した。
全国は435,751千羽で、前年に比べ12,088千羽（3%）増加している。



おおいた冠地どり（究極の親子丼）お披露目会



豊のしゃも炭火焼き提供（農業祭）

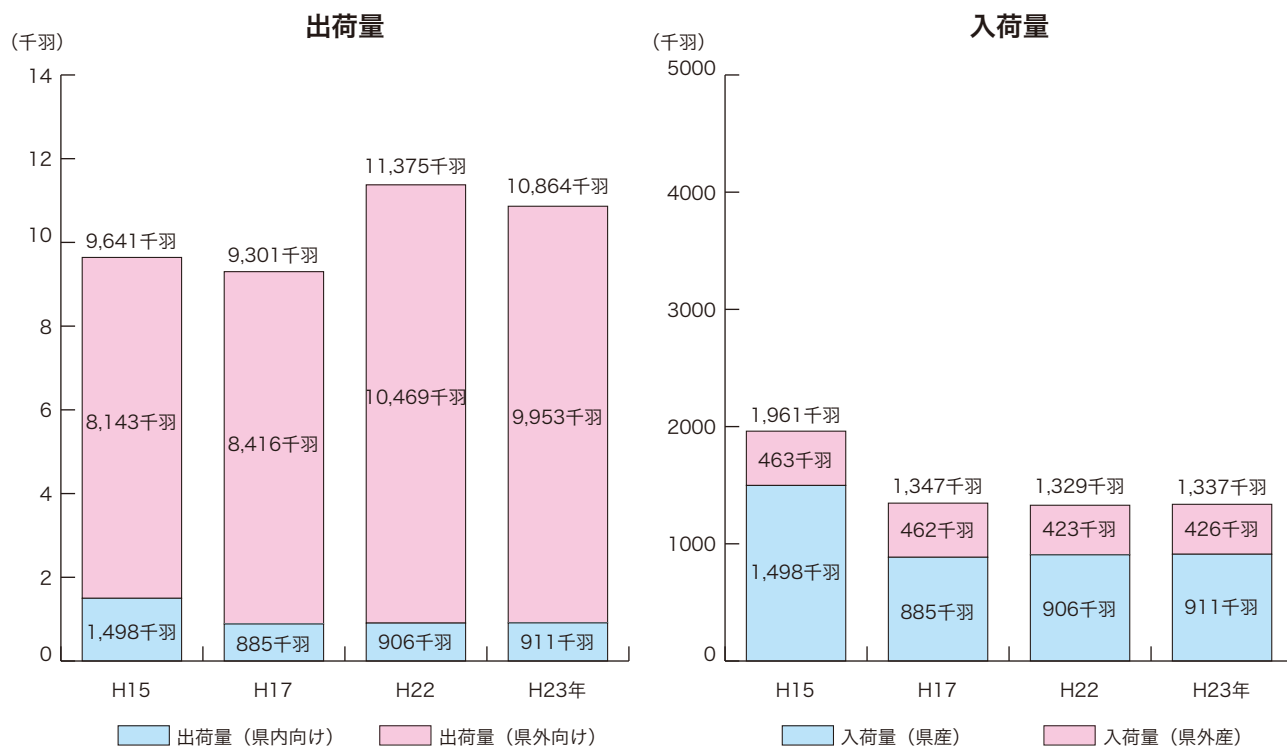


豊後牛 豊味の証を探せ！スタンプラリー（農業祭）



大分県鶏肉・鶏卵消費拡大推進サミット2012

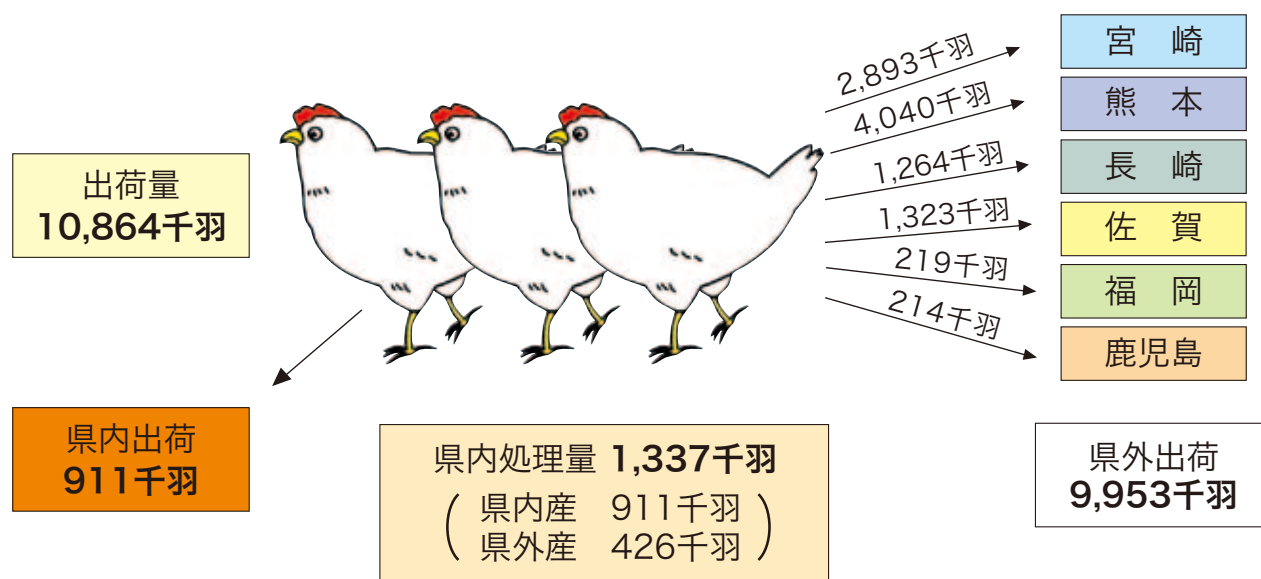
(4) ブロイラーの流通状況



資料：農林水産省「食鳥流通統計」

(注1) 出荷量：飼養から食用に供するために食鳥処理場へ出荷された食鳥（生体）をいい、生産者が自家消費した量は含まれない。
 (注2) 食鳥処理上：食用に供する目的でと鳥処理を行っている事業所（飼養者が自家用としている場合は含まない）のこと。

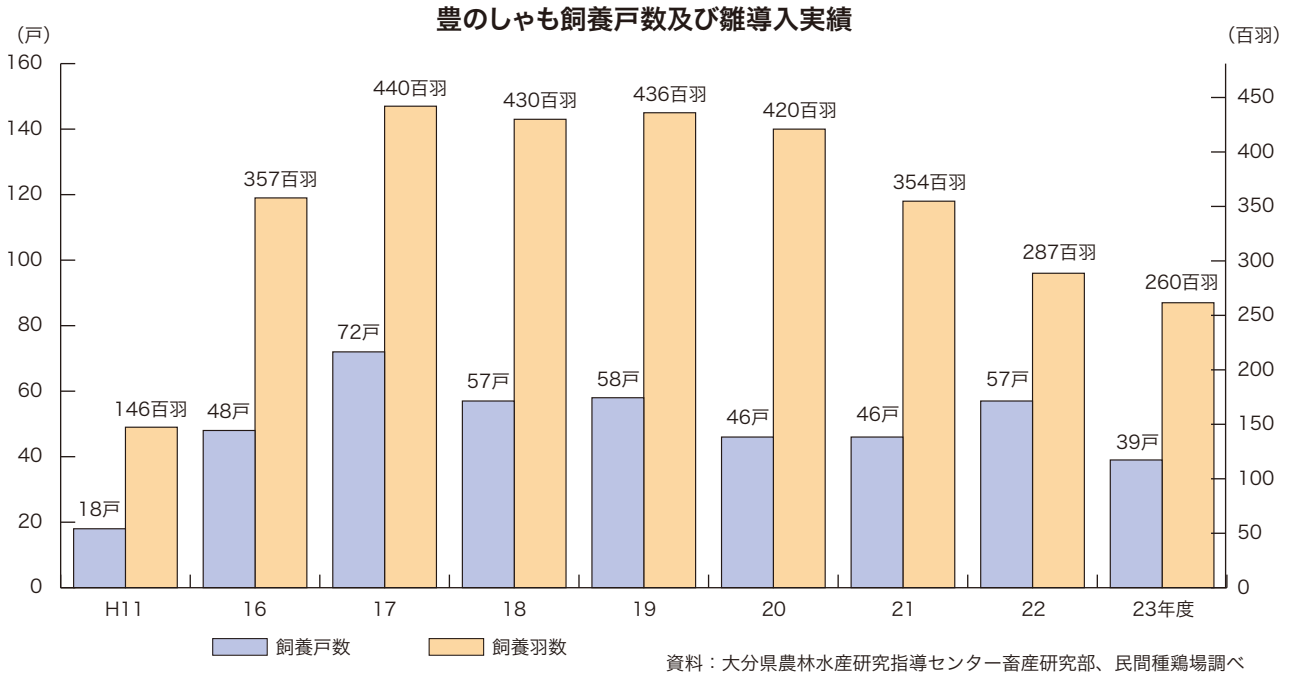
出荷量はH23年が10,864千羽であり、前年に比べ511千羽（5%）減少した。
 出荷先は県外が主であり、23年の県外割合は92%を占めている。
 入荷量はここ数年、横ばいで、H23年は1,337千羽と前年に比べ8千羽（0.6%）増えている。



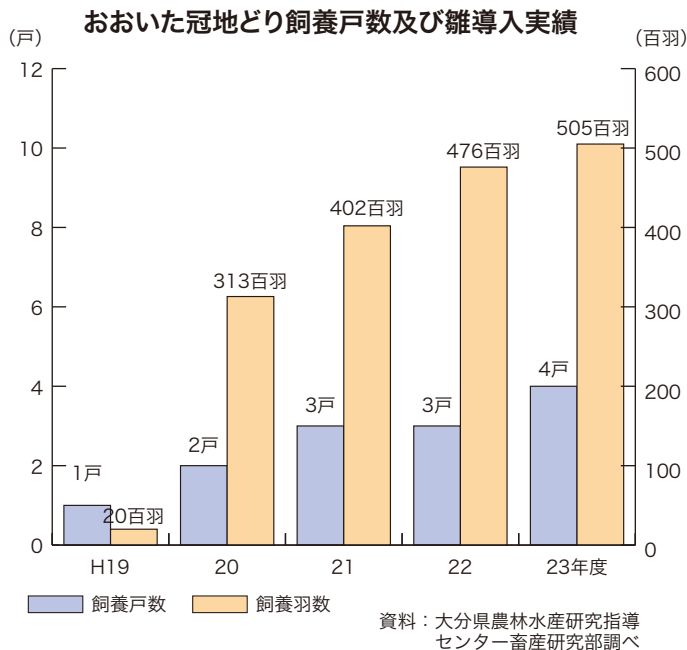
資料：農林水産省「食鳥流通統計」

6. 地鶏

(1) 豊のしゃも



(2) 冠地どり



(3) 地鶏取扱店

①豊のしゃも取扱店 (H24.8現在)

- ・県内販売店 15店 (12店：125%)
- ・県内料理店 39店 (36店：108%)
- ・県外販売店 8店 (1店：800%)
- ・県外料理店 24店 (22店：109%)
- 計 86店 (71店：121%)

※ ()内はH22年10月時点の店舗数及びH22年10月からH24年8月にかけての伸び率

②おおいた冠地どり取扱店 (H24.8現在)

- ・県内量販店 52店 (41店：127%)
- ・県内料理店 233店 (169店：138%)
- ・県外量販店 21店 (1店：2100%)
- ・県外料理店 39店 (16店：244%)
- ・その他 61店 (56店：109%)
- 計 406店 (283店：143%)

※ ()内はH22年8月時点の店舗数及びH22年8月からH24年8月にかけての伸び率 (%)

①豊のしゃも

飼養戸数は39戸で、前年に比べ18戸 (32%) 減少し、飼養羽数は260百羽と、27百羽 (9%) 減少した。H17年のピークに比べ、飼養戸数で54%、飼養羽数で59%となっている。

②おおいた冠地どり

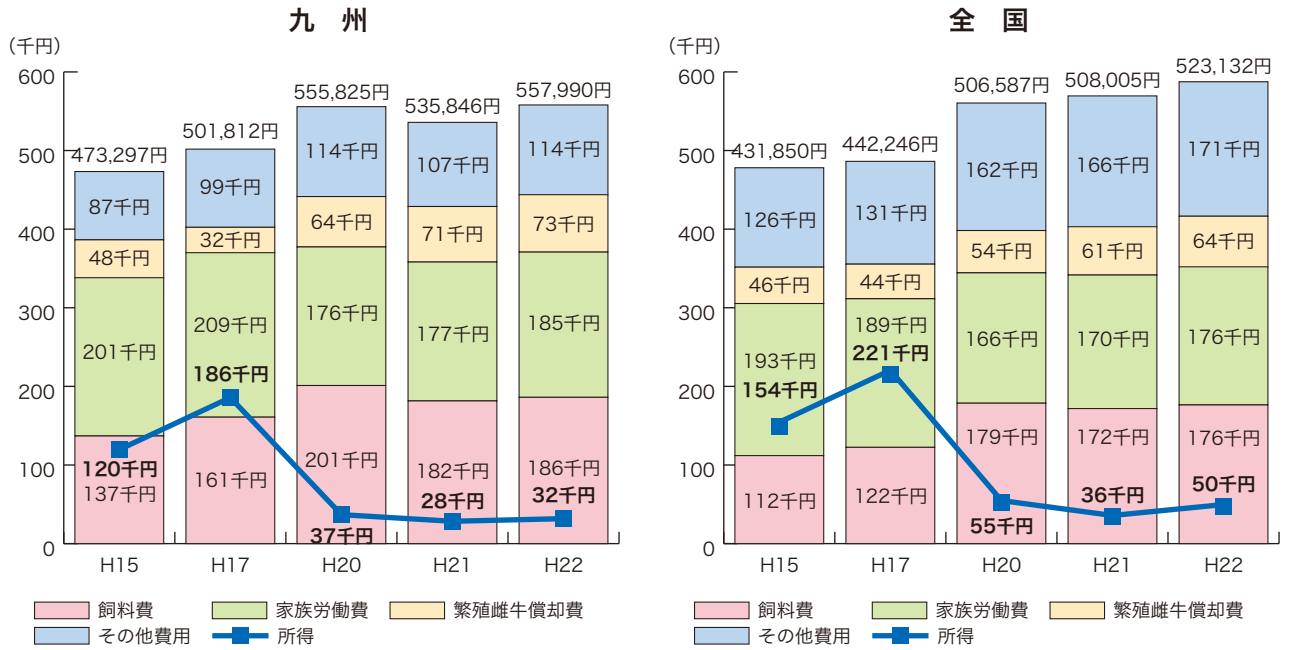
H23年度の飼養羽数は505百羽で、前年に比べ29百羽 (6%) 増加した。飼養戸数はH23年に1戸増え、4戸となっている。

③地鶏取扱店

豊のしゃも取扱店、おおいた冠地どり取扱店ともに、H22年に比べ増加したが、特におおいた冠地どり取扱店は前年に比べ123店 (143%) 増え、400店舗を超えている。

7. 生産費と所得の推移

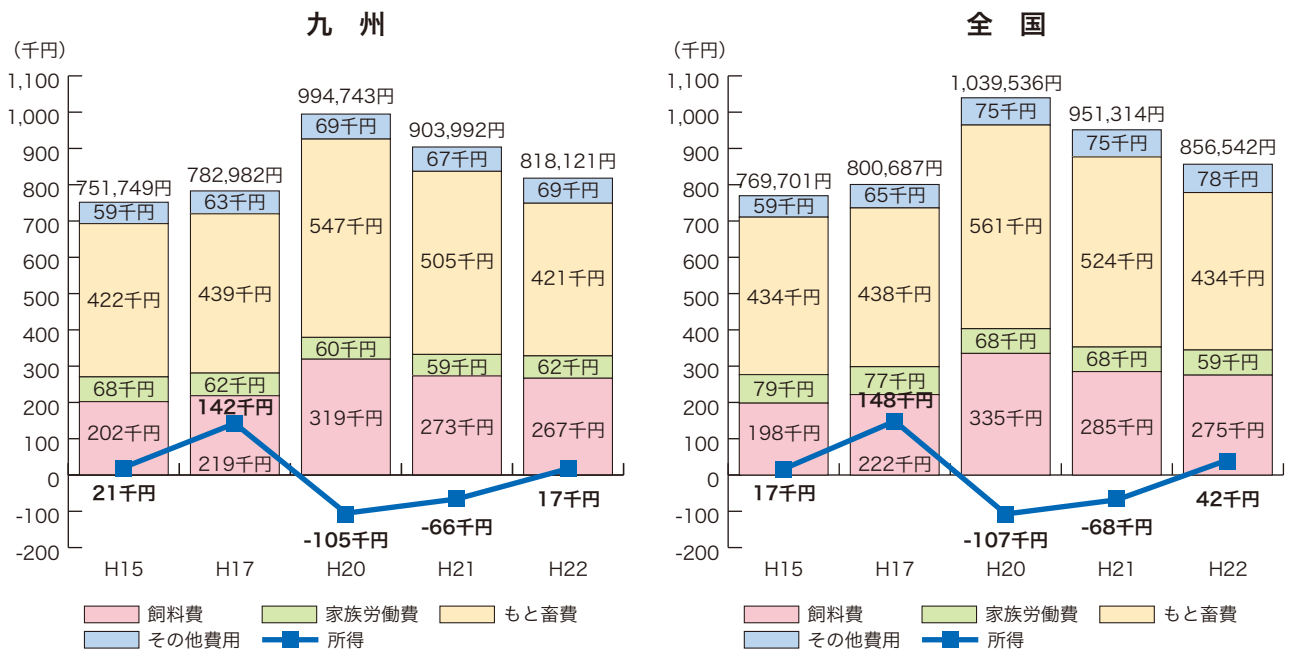
(1) 子牛の生産費（子牛1頭あたり）と所得（繁殖雌牛1頭あたり）の推移



資料：農林水産省「経営統計」

九州のH22年の生産費は557,990円で、前年に比べ22,144円（4%）増加したが、所得は31,775円で、3,359円（12%）増加している。
飼料費が高騰しており、H22年の飼料費は186,102円と、H15年に比べて49,192円（36%）高くなっている。
H22年で全国と比較すると、九州は生産費が34,858円高く、所得は17,936円低くなっている。

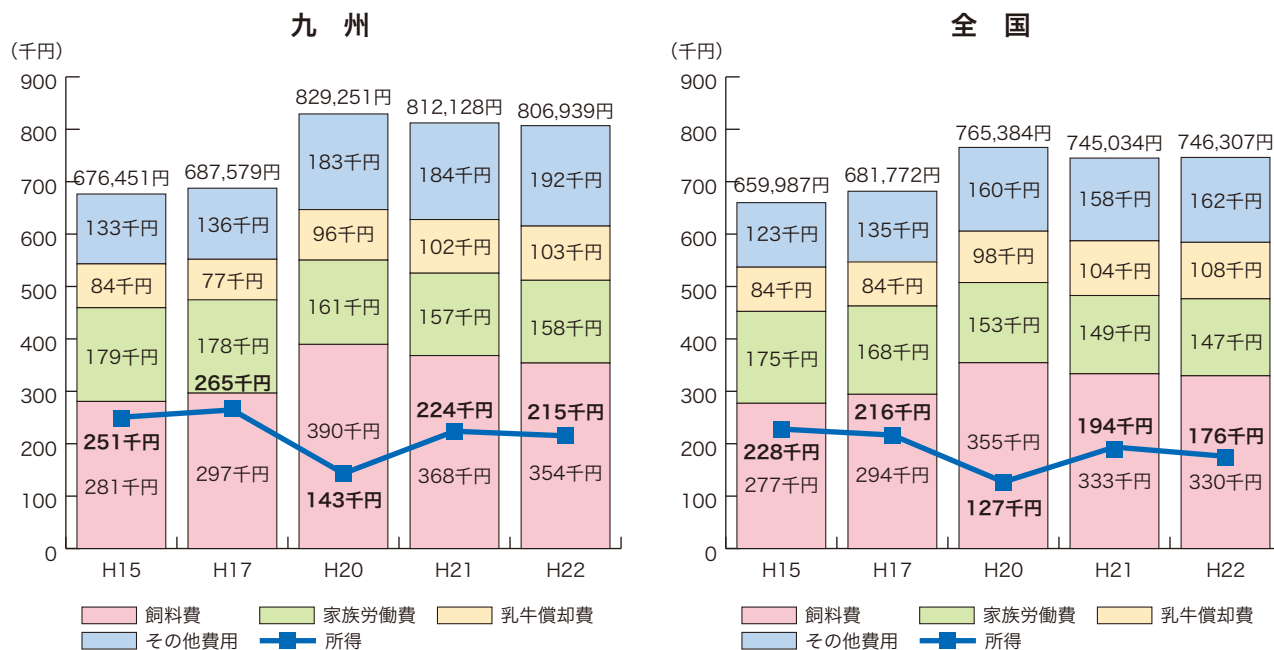
(2) 肥育牛生産費と所得の推移（去勢肥育牛1頭当たり）



資料：農林水産省「経営統計」

九州のH22年の生産費は818,121円で、前年に比べ85,871円（10%）減少し、所得は17,206円と83,225円増加している。
生産費で最も大きな割合を占めるもと畜費は、H22年が420,740円で前年に比べ83,843円（17%）減少している。
九州の生産費は全国に比べ低い傾向にあるが、所得はH22年で24,390円下回っている。
なお、出荷平均月齢は全国29.3、九州28.9であり、販売時生体重は全国751.6kg、九州739.5kgとなっている。

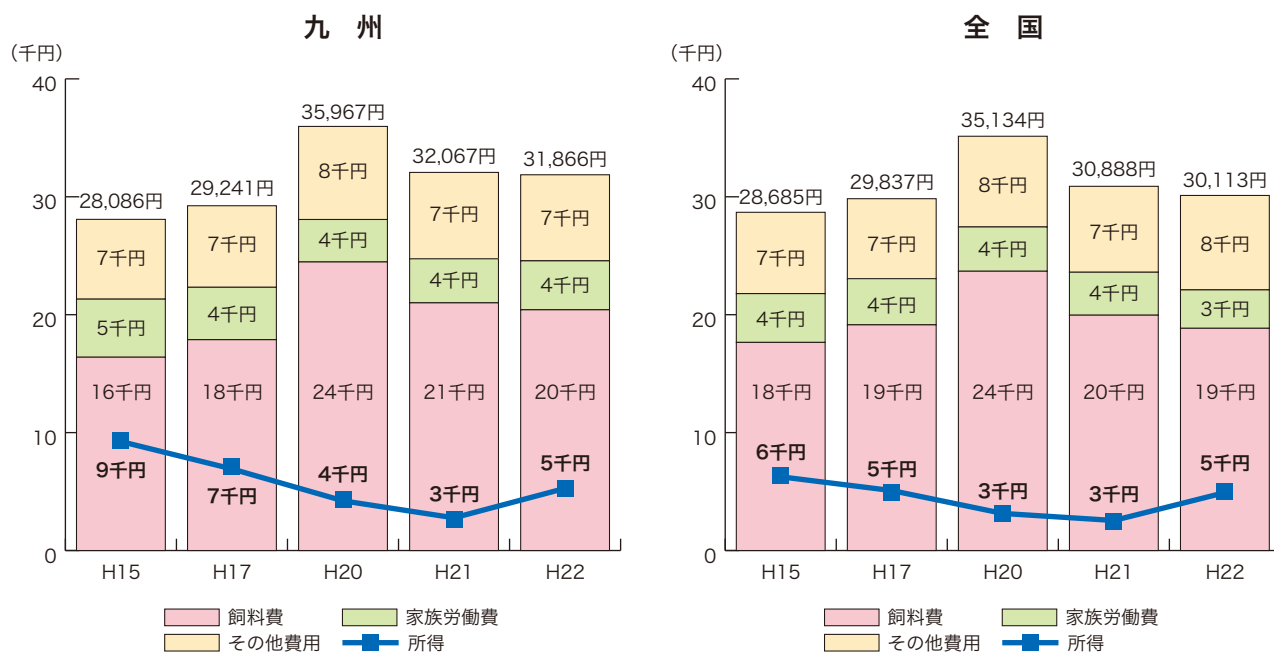
(3) 生乳生産費と所得の推移（搾乳牛通年換算1頭当たり）



資料：農林水産省「経営統計」

九州のH22年の生産費は806,939円で、前年に比べ5,189円（1%）減少し、所得は215,023円と、8,815円（4%）減少している。
九州の生産費は全国に比べ高くなっているが、所得も全国を上回っている。

(4) 肥育豚生産費と所得の推移（肥育豚1頭当たり）

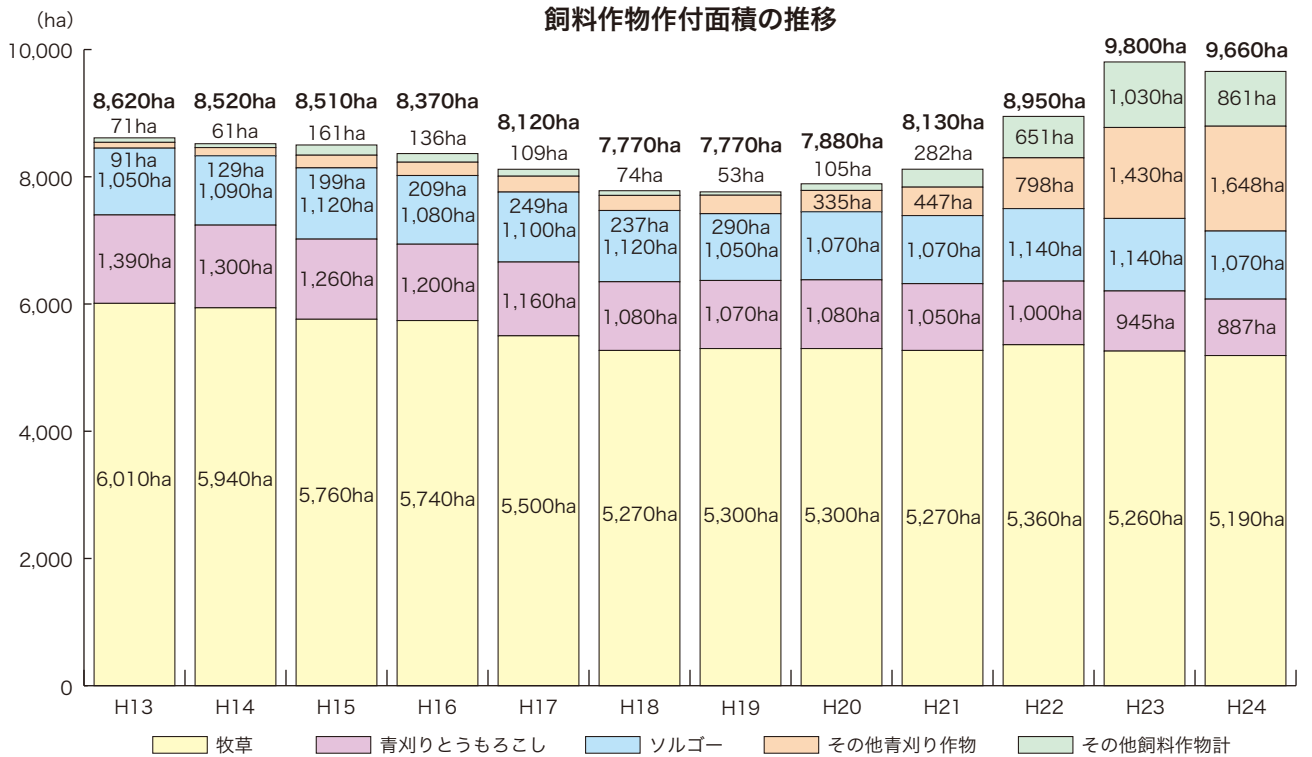


資料：農林水産省「経営統計」

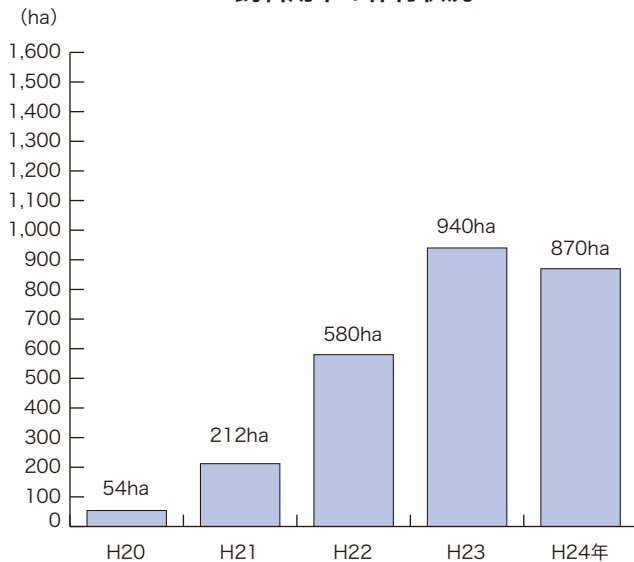
九州のH24年の生産費は31,866円で、前年に比べ201円（1%）低くなり、所得は5,271円と2,499円高くなっている。
生産費では飼料費の占める割合が最も大きく、飼料費が高騰したH20年は24,472円（68%）まで増え、H22年は20,415円（64%）となっている。

Ⅲ 飼料

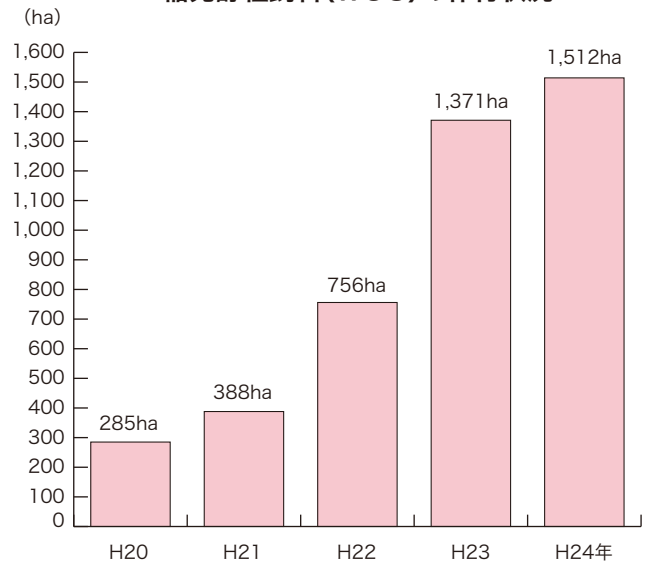
1. 飼料作物作付状況



飼料用米の作付状況



稲発酵粗飼料(WCS)の作付状況



資料：家畜衛生飼料室調べ

①飼料作物作付面積

H24年の作付け面積は9,660haであり、前年に比べ140ha（1%）減少している。作付け面積は縮小傾向にあったが、H18、H19年を底に、飼料価格の高騰が始まったH20年より拡大へ転じており、H19年と比べるとH24年は1,890ha（24%）増加している。

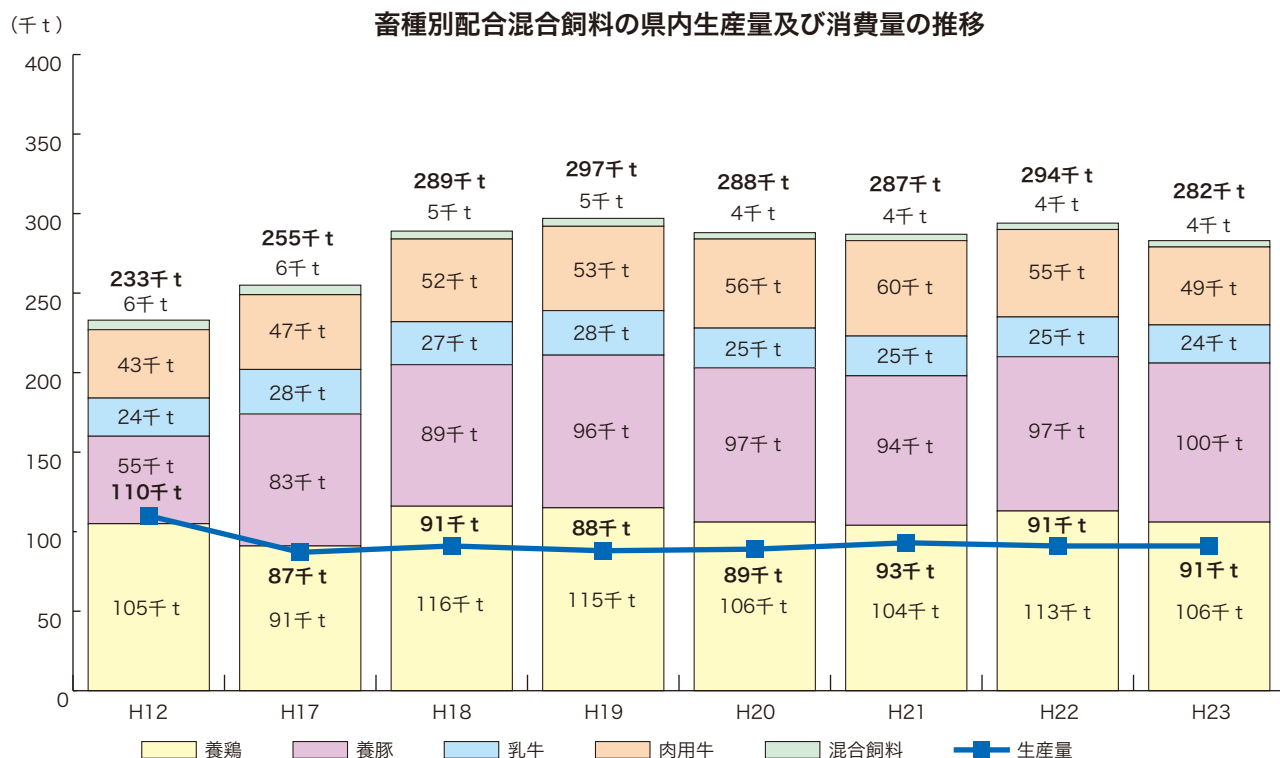
②飼料用米の作付状況

H20年より作付面積は拡大し、H24年は860haで、前年に比べ80ha（9%）減少する見込みとなっている。

③稲発酵粗飼料（WCS）作付状況

H24年の作付面積は1,512haで、前年に比べ141ha（10%）拡大した。飼料価格の高騰を背景に、国の戸別所得補償制度の実施等により、作付面積は急速に拡大している。

2. 配合混合飼料



(注) 混合飼料：行政や流通の上から、ある特定成分の補給又は輸入関税の免税措置を受けられることを目的に製造される配合飼料の一種。
 配合飼料：2種類以上の飼料原料を一定の割合で混合した物。我が国では一般に家畜・家さんの種類や飼料目的に応じて、必要な養分を十分含むように市販されているものが多い。
 四捨五入の関係で内訳の計は必ずしも総数に一致しない。

県内の全畜種における配合混合飼料の総消費量は、H19年以降減少傾向にあり、H23年はH22年比96%の282千tまで減少した。
 畜種別の消費量は肉用牛、乳牛、養鶏で飼養頭羽数の減少により減少傾向にあるが、養豚は飼養頭数の増加によりH21年以降増加している。
 また、配合混合飼料の県内生産量は、ここ数年ほぼ横ばいとなっている。



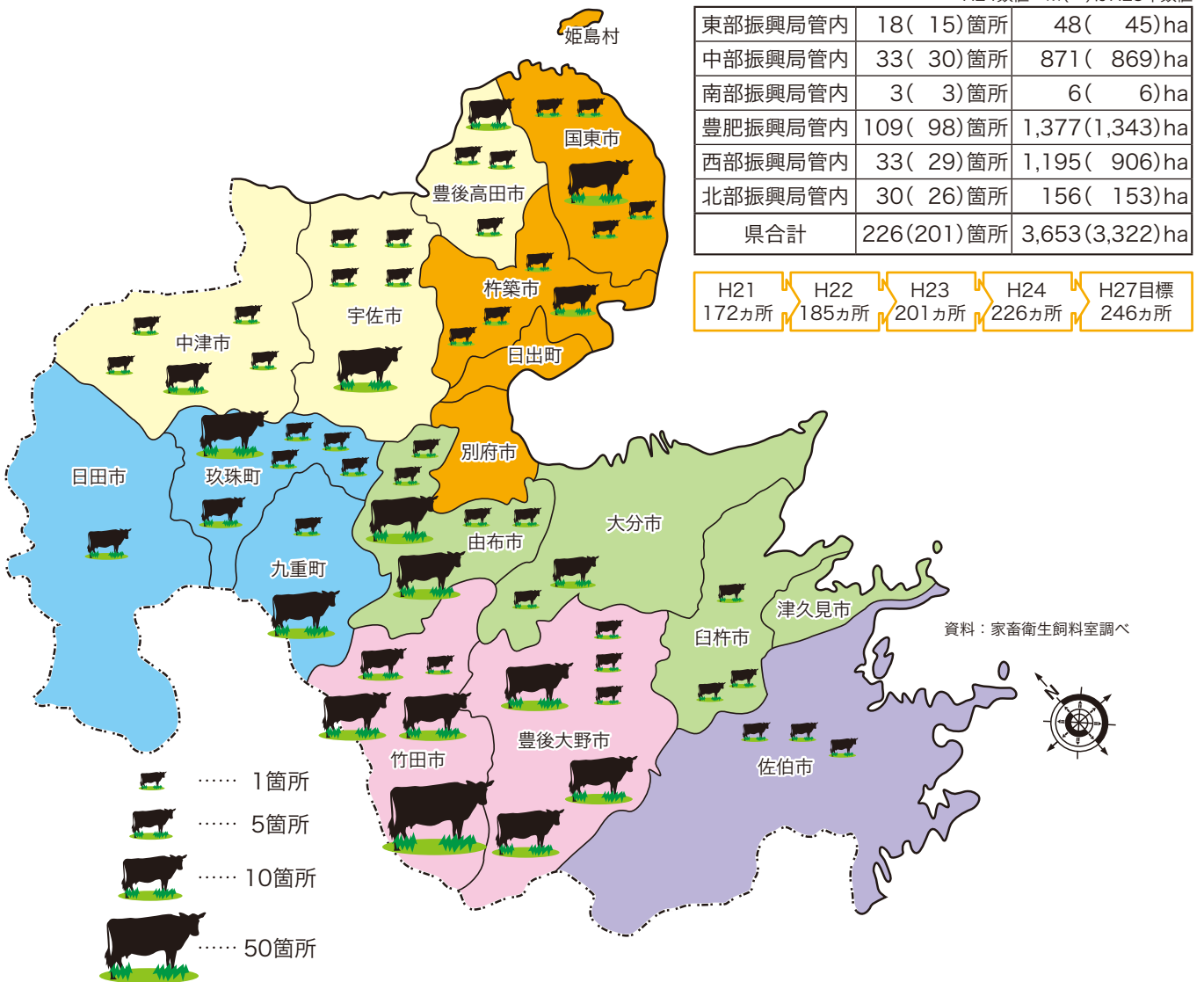
飼料用米（圧ベン）



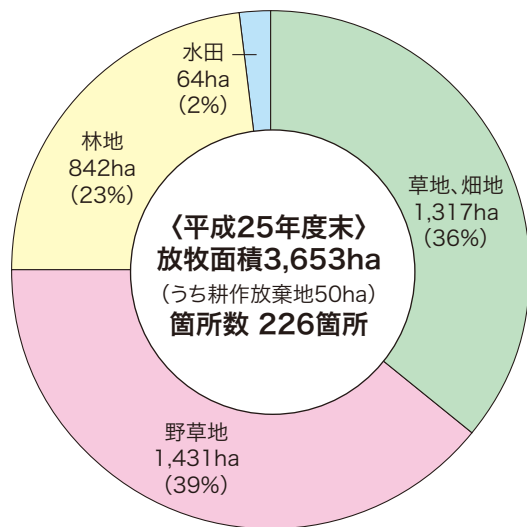
飼料用米刈り取り風景

3. 放牧取組状況

(1) 大分県における「おおいた型放牧」分布図（平成24年度末）



(2) おおいた型放牧面積の地目別内訳



おおいた型放牧は耕作放棄地の解消や、繁殖雌牛の飼養管理の省力化を目的として、近年、導入地区が大きく増えている。
地目別面積の内訳は草地畑地が1,317ha (36%)、野草地1,431ha (39%)、林地842ha (23%)となっている。



おおいた型放牧風景

IV 家畜衛生・畜産環境

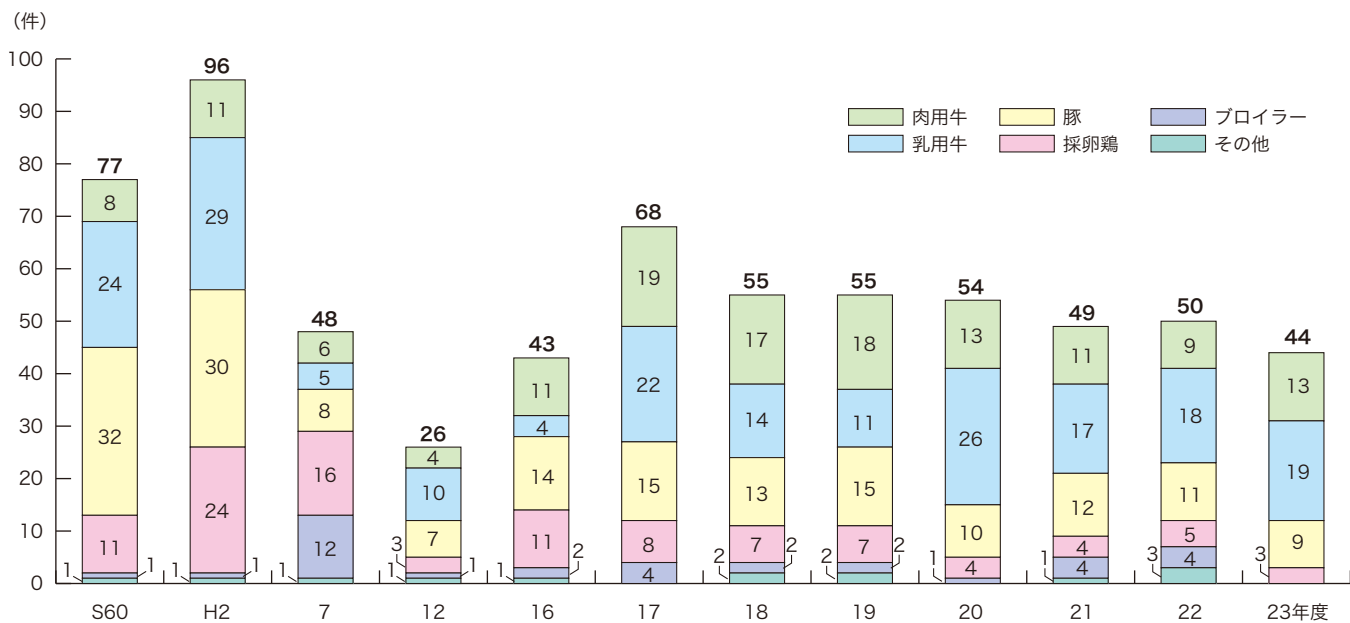
1. 監視伝染病の発生状況

区分	監視伝染病																																					
	法定伝染病										届出伝染病																											
	炭疽	結核病	ヨネ病	性馬貧血	豚コレラ	ニスルカ	ネラ感染症	家きんサルモネラ	高病原性鳥インフルエンザ	ふそ病	TSE	アカバネ病	鼻気管炎	牛白血病	牛ス感染症	アイノウイ	病イバラキ	破傷風	気腫疽※	ネオスポラ症	下痢粘膜炎	牛ウイルス性病	キールエス	胃腸炎	性下痢	豚丹毒※	サルモネラ症	マレック病	気管炎	伝染性喉頭炎	ロイコチトゾン	鶏痘	悪性カタル熱	レプトスピラ症	豚PRRS	豚赤痢		
牛・豚	牛	牛	馬	豚	鶏	鶏	鶏	鶏	豚	羊	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	豚	豚	豚	豚	牛・豚	鶏	鶏	鶏	鶏	牛	犬	豚	豚				
S50				2	1,697				291									10																				
51			1		120				80																													
52																																						
53																																						
54																																						
55																									1,843													
56																																						
57	1																							4,011														
58					19,427				66															1,584	1													
59									3																10													
60									113																37													
61									29																5													
62															19	3									14													
63																								16														
H元					2,276													2						15														
2		1							10									3						18														
3																								12														
4																								14														
5																								12														
6																								12														
7																								12														
8																								11														
9			3												2									17														
10											11	1	17	2										6														
11										21		31	10				2						4	2	69	1,600												
12												19					1	8	1					2														
13			1										11				2							3											1	2		
14			1										24											42	110											1		
15			13									14	61				1		2				150	127	48	2												
16			8				7	1				3	53				1	1	1	1				76	4											1		
17			2										49											84	5	9												
18			10						1		12	71												102	3	6											4	
19			5								1	30												66														
20			5									38							1					90	9													
21			9								2	42												149	5										2	7		
22			6						1			1	44											136	2											1		
23			9							1		1	52											57	2													

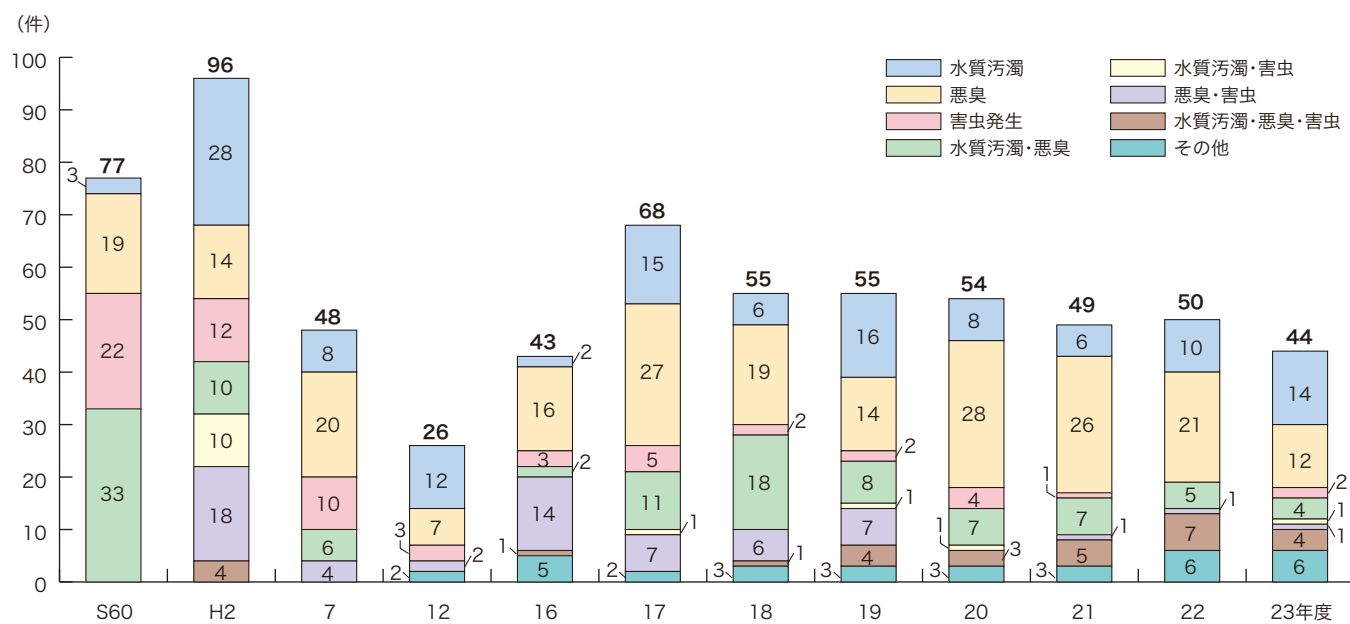
※印の疾病は平成9年度まで法定伝染病
資料：家畜衛生飼料室調べ

2. 環境汚染問題畜種別発生件数

(1) 畜種別苦情発生件数



(2) 種類別苦情発生件数



防疫演習 県総合対策本部会議



特定家畜伝染病防疫対策特別チーム(B-SAT)の現地演習

V 第10回 全国和牛能力共進会取組結果

和牛維新！ 地域で伸ばそう生産力 築こう豊かな食文化

平成24年10月25日～10月29日、長崎県佐世保市のハウステンポスをメイン会場に「第10回全国和牛能力共進会最終比較審査（長崎全共）」が開催され、全国38道府県から出品された代表牛480頭が、「種牛の部」と「肉牛の部」の9部門に分かれ、体型や肉質で改良の成果を競った。

大分県の代表牛は、第1区（若雄の区）に大分県農林水産研究指導センター畜産研究部から出品した「光星」号と、第5区（繁殖雌牛群）に玖珠郡和牛育種組合から出品した「藤平茂」号産子のセット群が、それぞれ最高賞となる優等賞1席（農林水産大臣賞）を受賞し、総合では、畜産大国の宮崎県、鹿児島県に続き、第3位の好成績を収めた。



県代表牛出品者（知事現地激励会にて）



審査風景（第7区）



第1区受賞牛
（県農林水産研究指導センター畜産研究部）



第5区受賞牛
（玖珠郡和牛育種組合）

第10回 全国和牛能力共進会 県代表牛の成績

	出品区		出場頭数	出品者		出品牛名号	成績	備考 (1席県)
				氏名	住所			
種牛の部	第1区	若雄	20	農林水産研究指導センター畜産研究部	竹田市久住町	光星	優等賞 1席 農林水産大臣賞 長崎県議会議長賞 家畜改良事業団賞	大分県
	第2区	若雌の1	33	森田 孝子	竹田市直入町	もりうめ	優等賞 9席	宮崎県
	第3区	若雌の2	33	工藤 眞次	由布市庄内町	よしふく	優等賞 4席 農林水産省生産局長賞	宮崎県
	第4区	系統雌牛群	13 セット	小野 忠温	玖珠郡玖珠町	まつはるみ1	優等賞 2席 農林水産省生産局長賞 佐世保市長賞 中央畜産会賞	宮崎県
				中原 賢一	玖珠郡九重町	まつとよ2の1		
				魚返 博明	玖珠郡玖珠町	まつよし7の3		
	第5区	繁殖雌牛群	15 セット	梅木 隆富	玖珠郡玖珠町	まつしげ6	優等賞 1席 農林水産大臣賞 第10回全共名譽会長賞 農畜産業振興機構賞 地方競馬全国協会賞	大分県
				森 信幸	玖珠郡九重町	はな		
				高橋 英雄	玖珠郡玖珠町	まきはる2		
	第6区	高等登録群	17 セット	河島 広太郎	玖珠郡玖珠町	まつふく2	優等賞 6席	鹿児島県
(有)グリーンストック八幡				玖珠郡玖珠町	ふくひさ			
衛藤 昇				玖珠郡玖珠町	まつふじ			
第7区	総合評価群	種牛	衛藤 昇	玖珠郡玖珠町	まつふじ3	4位 優等賞 4席 農林水産省 生産局長賞 日本食肉格付協会賞 大阪市食肉市場株賞	宮崎県	
			衛藤 昇	玖珠郡玖珠町	まつふじ3の1			
		肉牛	宿利 英治	玖珠郡玖珠町	たかさくら3			
			佐藤 美知雄	玖珠郡九重町	よしひら			
肉牛の部	第8区	若雄後代検定牛群	相良 謙二	玖珠郡玖珠町	もりこ	5位	長崎県	
			赤峰 稔彬	玖珠郡九重町	ひさとみ13			
			(有)ファゼンダ・グランデ	玖珠郡玖珠町	富士野21			
	第9区	去勢肥育牛	76	森 利博	玖珠郡九重町	勝清	1等賞 5席	宮崎県
				浦田 学	宇佐市院内町	植大和		
				(有)ファゼンダ・グランデ	玖珠郡玖珠町	弘舟		
				尾道 一太	中津市耶馬溪町	千代乃富士		
第9区	去勢肥育牛	76	浦田 学	宇佐市院内町	実穂元義	1等賞 2席	宮崎県	
			阿部 登	杵築市山香町	鶴2710			
第9区	去勢肥育牛	76	狩生 正治	佐伯市弥生町	植706	1等賞 2席	宮崎県	

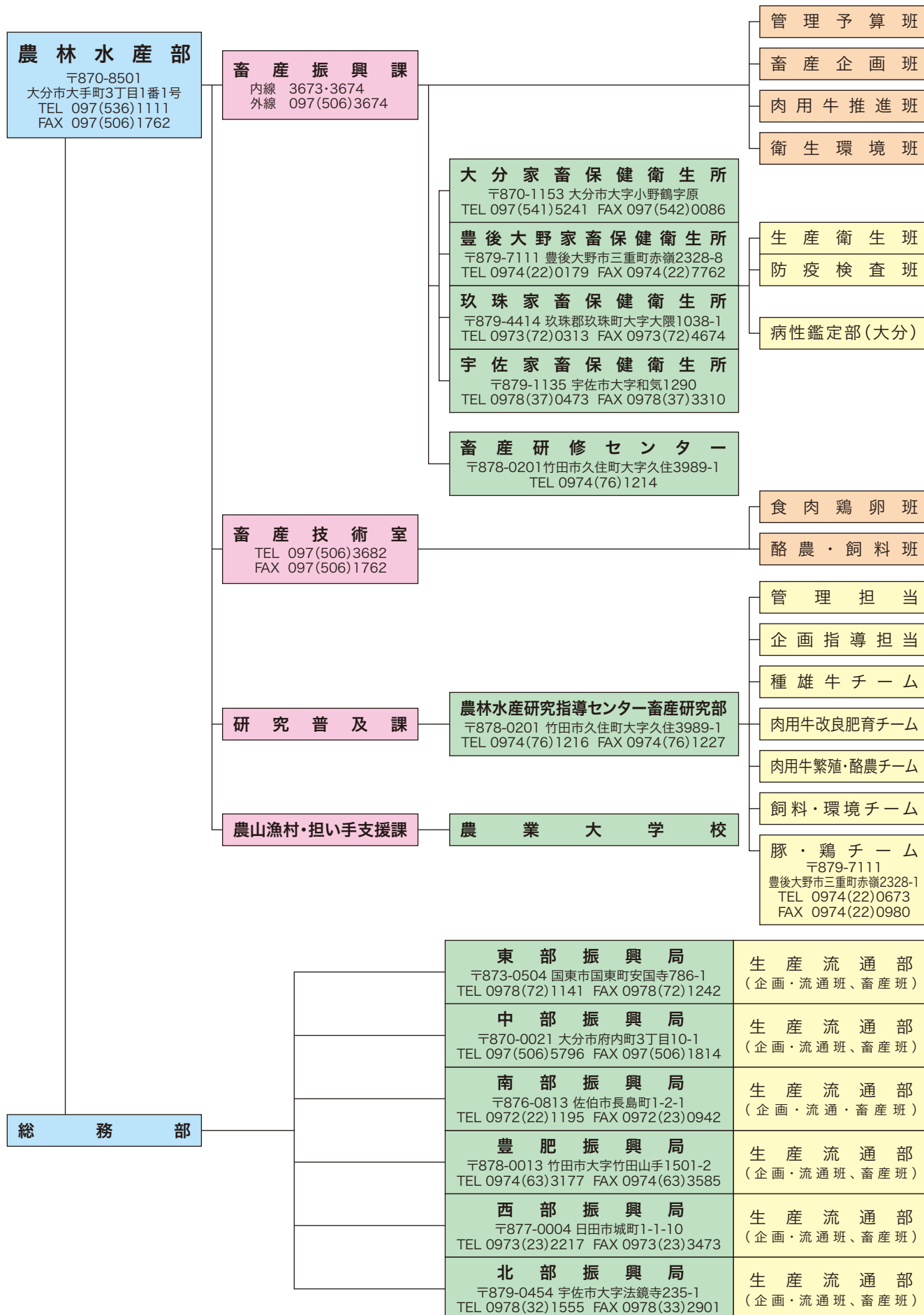
(資料 1)

畜産関係団体等一覧

名称	代表者	郵便番号	住 所	電話番号	FAX 番号
(公社)大分県畜産協会	近藤 和義	870-0844	大分市古国府 1220 JA 全農大分県本部内	097-545-6591	554-4049
大分県家畜人工授精師協会	森川 英則	870-8501	大分市大手町 3-1-1 県庁家畜衛生飼料室内	097-506-3684	506-1762
大分県草地飼料協会	坂本 和昭	870-8501	大分市大手町 3-1-1 県庁家畜衛生飼料室内	097-506-3682	506-1762
(社)大分県配合飼料価格 安定基金協会	帆秋 忠俊	870-0025	大分市顕徳町 2-1-3 カーサ阿部 203	097-534-2727	534-0991
大分県家畜商業協同組合	石田 和男	870-0044	大分市舞鶴町 1-4-15 大分県農業会館内	097-532-8577	532-8582
(公社)大分県獣医師会	麻生 哲	870-0901	大分市西新地 1-2-29	097-555-9527	555-9528
(株)大分県畜産公社	佐藤 洋	879-7305	豊後大野市犬飼町田原 1580-29	097-578-0290	578-0308
(有)大分県酪農振興公社	中村 英範	870-1201	大分市廻栖野 3231 (大分県酪内)	097-586-4222	586-4226
(公社)全国和牛登録協会 大分県支部	近藤 和義	870-0844	大分市古国府 1220 (全農大分県本部別館 1 階)	097-574-8588	574-8258
大分県養豚協会	福田 実	870-0844	大分市古国府 1220 (大分県畜産協会内)	097-545-6593	554-4049
大分県養鶏協会	鈴木 明久	870-0844	大分市古国府 1220 (大分県畜産協会内)	097-545-6593	554-4049
大分県養蜂組合	近藤 純一	879-0601	豊後高田市草地 8767	0978-24-1231	—
大分県食肉事業協同組合 連合会	清田 浩徳	870-1121	大分市鴛野 929-3	097-529-6544	529-6599
大分県農業協同組合中央会	佐藤 洋	870-0044	大分市舞鶴町 1-4-15 大分県農業会館内	097-538-6366	538-7125
大分県信用農業協同組合 連合会	秋國 崇己	870-0044	大分市舞鶴町 1-4-15 大分県農業会館内	097-538-6385	535-2746
全国農業協同組合連合会 大分県本部	幸野 茂巳	870-0844	大分市古国府 1220	097-544-0046	545-9532
大分県農業共済組合連合会	日野 立明	870-0822	大分市大道町 3-1-1	097-544-8110	544-8242
大分県酪農業協同組合	清末 健一	870-1201	大分市廻栖野 3231	097-586-4222 (管理部)	586-4226
九州乳業株式会社	江川 清一	870-1201	大分市廻栖野 3231	097-586-4135	586-4136
(社)大分県酪農ヘルパー協会	清末 健一	870-1201	大分市廻栖野 3231 (大分県酪内)	097-586-4225 (酪農部)	586-4226
大分県牛乳普及協会	清末 健一	870-1201	大分市廻栖野 3231 (大分県酪中央支所内)	097-586-4094	586-4095
(株)大分県酪食肉公社	宇野 幸一	870-0108	大分市大字三佐字新港 2405-2	097-521-4452	522-2743

(資料 2)

畜産関係機関県組織機構 (平成25年4月1日現在)



(資料 3)

大分県の基幹種雄牛

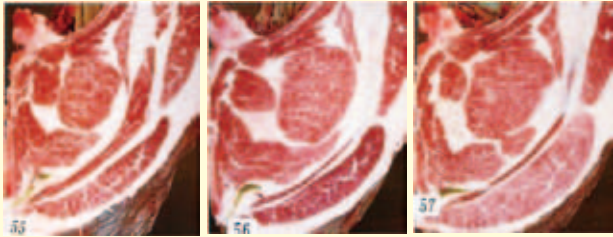
玉吹雪

藤平茂－平茂勝－初藤

枝肉重量、ロース芯面積、バラ厚、脂肪交雑(平均11)で高評価。気高の強い血統であり糸桜系、但馬系雌牛との交配を推奨。



平成22年度現場後代検定合同調査会枝肉成績



枝肉重量(kg)	518.8	枝肉重量(kg)	452.6	枝肉重量(kg)	474.9
ロース芯(cm)	56	ロース芯(cm)	68	ロース芯(cm)	72
バラ厚さ(cm)	8.7	バラ厚さ(cm)	7.8	バラ厚さ(cm)	8.3
皮下脂肪(cm)	3.0	皮下脂肪(cm)	2.6	皮下脂肪(cm)	2.8
BMS No.	9	BMS No.	12	BMS No.	12
格付	A5	格付	A5	格付	A5

勝福平

平茂勝－糸福－第20平茂

平成20年度調査会では、肉質、枝肉重量、脂肪交雑がトップで、質量兼備の高い評価。産子の発育も良い気高系種雄牛。



平成20年度現場後代検定

合同調査会枝肉成績(A5-11、B5-10、B5-9、A5-8)

萬福8

紋次郎－糸福－安金土井

平成21年度調査会では、脂肪交雑がトップ。糸桜系、気高系の雌牛と交配を推奨。



平成21年度現場後代検定

合同調査会枝肉成績(A5-9、A5-9、A5-9)



寿恵福

糸福－福鶴57－八重福

名牛「糸福」の後継牛。枝肉成績は全ての形質で高い評価。肉質、肉量ともに抜群の改良効果あり。保留促進中。



光照福

照長土井－安美土井－菊茂土井

純但馬系種雄牛で資質、品位に富み、体上線、肢蹄の強さ、乳器の良さに優れ、産子の発育も良好。ロース芯面積が大、形状も良好、小ザシ。



八重福栄

福栄－糸福－八重福

検定で4・5率88.2%、モモ抜けの良さは特筆。脂肪交雑育種価で種雄牛中最高。産子の発育、資質に優れ、但馬系の雌牛との相性良好。



隆茂38

隆茂福－安福－糸花

気高系、但馬系、糸桜系の遺伝的寄与率がほぼ同等。肉質、肉量で高い評価。いずれの系統の雌牛にも交配可能。



藤平茂

平茂勝－初藤－清勇

糸桜系への交配で枝肉成績が良好。質量兼備の高い評価。産子の発育、体型、斉一性に優れる。



喜実金

金幸－第20平茂－忠福

間検で脂肪交雑4.0、歴代2位。糸桜系雌牛への交配で肉質、肉量の改良効果。体幅、後軀等の体型的な改良効果。

(資料 4)

県内の主要なふれあい牧場

町田バーネット牧場

大分県玖珠郡九重町町田
TEL 0973-78-9446 FAX 0973-78-9449

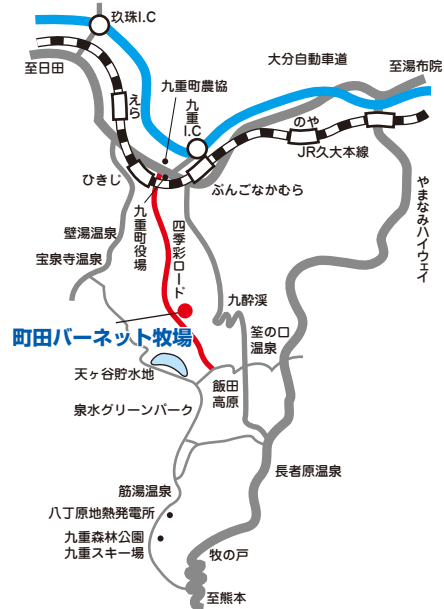
自然の景観が素晴らしい町田バーネット牧場は豊後牛をはじめいろいろな動物を飼育している。ポニー、ヤギ、ウサギ、地鶏に直接エサを与えたり、触ったり、動物とのふれあいを通して忘れかけた自然のすばらしさを満喫することができる。



○駐車場/300台 ○売店/有 ○営業時間/夏10:00~18:00 冬10:30~17:30 ○バーベキューハウス/有 ○休日・休館日(冬期)/第2・4火曜日 ○乗馬体験(有料)/5月連休・夏休みのイベント時

【アクセス】

- 電車/JR久大本線豊後中村駅下車、車で15分
- 車/JR久大本線豊後中村駅下車、車で15分
- 車/JR久大本線豊後中村駅下車、車で15分
- 車/大分自動車道九重ICから15分



カウベルランドくす

大分県玖珠郡玖珠町大字戸畑9848-1
TEL0973-73-8037・FAX0973-78-8668

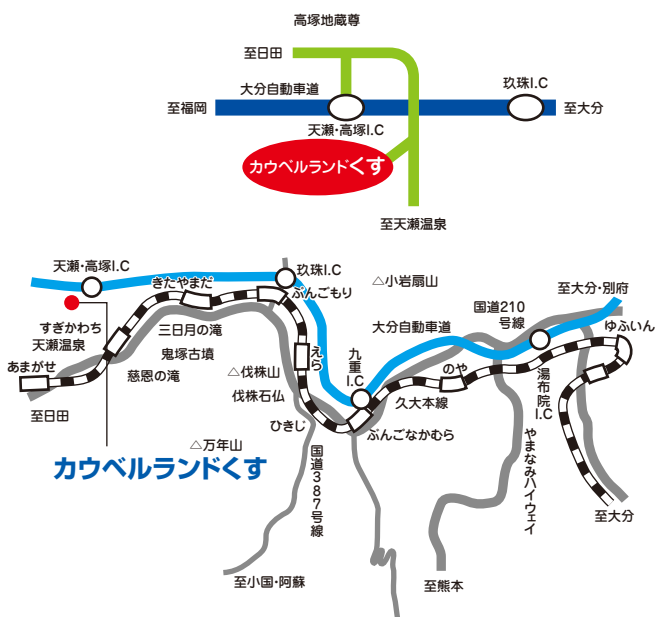
都市と農村の交流拠点として建設され、町内外の多くの人に親しまれている。場内には特産物直売館としてのレストラン(300人収容)、キャンプ場、小動物館そして四季折々の花が栽培される花壇等の施設が点在している。



○駐車場/340台 ○売店/有 ○営業時間/10:00~21:00 レストラン11:00~21:00 ○レストラン/有 ○休日・休館日/無 ○宿泊施設/有

【アクセス】

- 電車/JR久大本線豊後中川駅下車、車で20分
- 車/大分自動車道天瀬・高塚ICから3分



ガンジーファーム

大分県竹田市久住町大字久住4004-56
TEL0974-76-0760

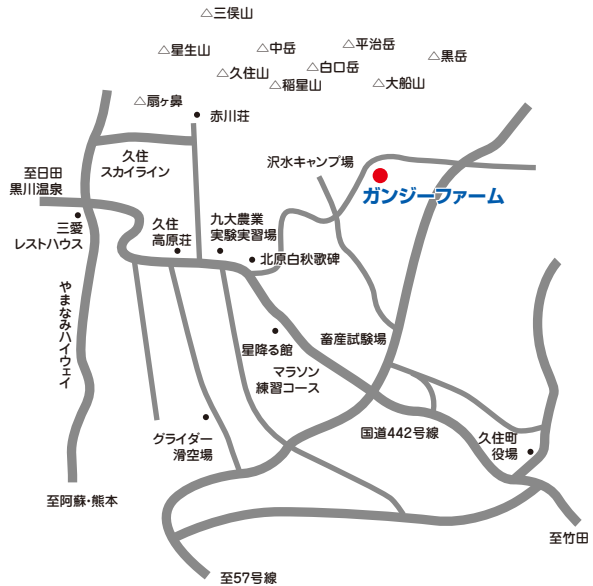
久住山の山麓の高原には名前の由来にもなったガンジー乳牛が飼育されている。乳製品工場、レストランや資料館が点在し、自家製乳製品はおみやげにも最適。ふれあい牧場（羊、ヤギ等）、ポニーハウスも有る。



○駐車場/100台 ○売店/有 ○営業時間/9:00~17:00 ○レストラン/有 ○休日・休館日/無 ○搾乳体験(晴れの日のみ)/土・日・夏休み ○オリジナル牛乳・乳製品/牛乳、アイスクリーム、チーズ、ヨーグルト他

【アクセス】

- ◎電車 / JR豊肥本線豊後竹田駅下車、車で30分
- ◎車 / やまなみハイウェイ(九州横断道路) 瀬の本交差点から15分



みどりマザーランド

〒870-1203 大分県大分市大字廻栖野3231
TEL 097-586-4183 (九州乳業株) 平成12年4月開園

都市(大分市)に隣接した地域にあって、豊かな自然に恵まれた山と緑が織り成す雄大な景観に浸りながら、広大な芝地の中での遊観。複合的遊具等、変化に富んだ施設が整備され、四季を通じて広く住民の「交流の場」として利用されています。



○駐車場/300台(イベント開催時1,000台)大型バス10台(イベント開催時20台) ○ふれあい・研修施設/ふれあい牧場、ふれあい公園施設、研修施設ふれあい棟・見学コース(製造行程) ○入園時間/9:00~17:00

【アクセス】

- ◎車 / 大分市中心街より20分



(資料5)

平成24年 農林水産部畜産振興課・家畜衛生飼料室の主な出来事（1～12月）

月 日	内 容
1月27日	豊後牛料理自慢交流研修会を開催
5月9日	豊後牛のあすを拓くしんけん会議を設置
6月20日	大分県産牛乳消費拡大推進セミナー2012を開催
8月1日	第60回大分県肉牛枝肉共励会が大分南港市場において開催される 「和牛の部」では(有)ファゼンダグランデが、「交雑牛の部」では後藤秀樹氏が最優秀賞(県知事賞)を受賞
8月24日	第10回全国和牛能力共進会大分県最終予選会を開催
9月10日	大分県牛乳・乳製品食育推進シンポジウム2012を開催
9月23日	全共イベント「オレイン和牛の饗宴」を東京で開催
9月25日	おおいた肉牛生産者協議会を設立
10月4日	大分県特定家畜伝染病(HPAI)防疫演習を実施
10月5日	全日本牛枝肉コンクール開催 豊後高田市の北崎敏文氏が「交雑牛の部」において最優秀賞1席を受賞(通算3度目)
10月6日	大分県畜産共進会(肉牛の部)が開催される 第1区では亀井典保氏が農林水産省生産局長賞を、第2区では桑原真二氏が九州農政局長賞を受賞
10月20日 ～21日	県農業祭会場において、畜産フェスティバルを実施 フェスタでは、県産畜産物の出品があった他、「豊後牛豊味の証を探せ!スタンプラリー」等のイベントを実施
10月25日 ～11月29日	第10回全国和牛能力共進会が長崎県で開催 県勢が2部門で優等賞1席(農林水産大臣賞)を獲得
11月4日	大分県畜産共進会(乳用牛の部)が開催される 伊藤健太氏(玖珠町)が農林水産大臣賞を受賞
11月20日	大分県鶏肉・鶏卵消費拡大推進サミット2012を開催
11月21日	大分県家畜保健衛生並びに畜産関係業績発表会を開催
11月21日 ～23日	大分県香港プロモーションを実施 (株)まるひでの出品により豊後牛が初めて海を渡る
11月30日	和牛登録協会減率審査研究会が開催される
12月5日	第61回大分県肉牛枝肉共励会が大分南港市場において開催される 「和牛の部」では片桐和彦氏が、「交雑牛の部」では北崎敏文氏が最優秀賞(県知事賞)を受賞

01 豊後牛の煮込み ゴボウ風味ポテトのムース焼き



材 料 4人前

豊後牛煮込み用	400g
塩、コショウ	少々
小麦	少々
サラダオイル	50g
赤ワイン	1/2本
フンドヴォー (又はチキンブイヨン)	200cc
にんにく	1粒
にんじん (小)	1/2本
大根 (小)	5cm
玉ねぎ (小)	1個
椎茸 (中)	4枚
ごぼう (小)	1本
青物野菜 (さやいんげん又はほうれん草)	100g
バター	30g
お湯 (煮詰まった時に補充)	
ごぼう用茹で汁	
水	500cc
塩	5g
酢	50cc
ポテトのムース	
じゃがいも (皮をむいたもの)	160g
バター	40g
牛乳	160cc
きゅうり (小)	1本
バター	10g
塩、コショウ	少々

作 り 方

- ごぼうを良く洗い3cmの筒に切り鍋に入れ、ごぼう用茹で汁を加え火に掛け沸騰して2分位したら水にさらし、冷めたらザルにあげておく。
- にんにくはみじん切り、玉ねぎは1/8のくし切りにする。
- 椎茸の足を切り取り、傘を1/4切りにする。
- にんじん、大根の皮を剥き、3cmのくし切りにする。
- お湯を沸かし塩を加え青物野菜を茹で、水に取り冷めたらザルにあげておく。
- 豊後牛煮込み用肉に塩、コショウ、小麦粉をまぶす。
- 鍋を火に掛け熱くしてサラダオイルを敷き、肉を入れ両面が色づくまで焼き取り出しておく。この鍋にごぼう、玉ねぎ、にんにく、椎茸、にんじん、大根を入れ軽く炒め油を切り、肉を戻し赤ワインを注ぎ弱火で3～4分煮て、フンドヴォーを加えさらに煮立て、蓋をし弱火で煮込む。
- 蓋をした鍋ごと⑦をオープンに入れ、肉の部位によるが、1.5時間～3時間温める。野菜が煮えすぎると取り出しておく。肉と野菜を取り出し、煮汁を別鍋に渡し脂を除き味を調べ、先に取り出した野菜、肉を戻し、弱火で温める。
- きゅうりの皮を剥き縦に1/2に切りスプーンで種を除き、3mmの厚さに切りサッと塩茹でし水に取り、冷めたらザルにあげておく。
- ポテトを2～3cmの塊に切り茹で湯を切り、粉ふき芋のように水気を切り突きつぶしてバターを練りこむ。これに牛乳を加え熱くして軽くバターでいためたきゅうりを合わせ、塩、コショウで味付けする。
- 青物野菜をバターで炒め、塩、コショウで味付けする。
- 深皿に⑧を入れ、⑩の青物野菜をちらし、全体に⑩のポテトを掛け、230℃のオープンでグラタンにする。

02 おおいた冠地どり胸肉 サフラン風味ソース煮、海老添え



材 料 4人前

冠地どり胸肉 …………… 2枚
(両面に塩、コショウする。)
サラダオイル …………… 20g
エシャロット (みじん切りにする) …… 30g
(又は長ネギの白い部分)
エリンギ茸 …………… 100g
バター …………… 30g
小海老 (全部皮をむく) …………… 160g
白ワイン (又は日本酒) …………… 100cc
牛乳 …………… 200cc
サフラン (大分県産) …………… 20本
生クリーム …………… 100cc

ブルー・マニエ

ペースト状にした
バター、小麦粉 …………… 各15g
ブロッコリー (親指大) …………… 12個
(塩ゆでし、水で冷ましざるに取る。)
チェリートマト …………… 12個
(又はプチトマト)
(へたを取り湯むきする。)
レモン汁 …………… 1/4個分位
ヌードル (ゆでたもの) …………… 200g
(又はやせうま)
ほうれん草 …………… 1束
バター …………… 40g
塩、コショウ …………… 少々

作 り 方

- ① 鍋を火に掛けサラダオイルを注ぎ、熱くなったら冠地どり胸肉を皮を下にして入れ、弱火にし蓋をして5～6分焼き(皮面に軽く色付いた状態)、裏返し1分位焼き取り出す。
- ② 鍋の油を捨て、弱火に掛けバター30gを溶かしエシャロットを2～3分炒め、エリンギ茸を加え更に2～3分炒め小海老を加える。小海老が赤くなったら冠地どり胸肉を戻し、白ワインを加え、一煮立ちしたら小海老を取り出し、液体を半量まで煮詰め牛乳を加え軽塩、コショウをし、蓋をして弱火で10分くらい煮る。
- ③ 鍋を火に掛け、アクを取り、サフランを加えエリンギ茸の表面が出るくらいまで煮詰める。これに小海老を戻し、次にチェリートマト、ブロッコリー、生クリームを加え軽く煮立て、泡立て器を使いブルー・マニエを煮溶かし、塩、コショウで味を調えたら火を止め、必要ならレモン汁を加える。
- ④ フライパンを火に掛け温まったらバターを溶かしヌードル、ほうれん草を炒め塩、コショウで味付けする。
- ⑤ 皿にヌードルを敷き、冠地どり胸肉と中の野菜を皿に盛り、③のソースを上からたっぷり掛ける。

03 豚ロース肉 椎茸風味焼き



材 料 4人前

豚ロース肉	140g×4枚
サラダオイル	30g
にんにく	1粒
玉ねぎ	100g
椎茸の足	2パック分
フンドヴォー（又はブイヨン）	160cc
水	
エシャロット	80g
（又は長ネギの白い部分）	
椎茸	200g
バター	60g
食パン（耳付き）	120g
パセリの葉	1茎分
卵	1個
パン粉	1掴み
（食パンを細かく切って）	
牛乳	240cc
キャベツ（又は白菜）	120g
ほうれん草	120g
ハム	40g
バター	40g
大葉	1袋
塩、コショウ	少々

作り方

- 椎茸の足、にんにく、玉ねぎ、エシャロット、パセリを、別々にみじん切りにする。
- 椎茸の傘は3mmの厚さに切る。
- キャベツ（又は白菜）の茎は縦長に4mm幅に、葉は縦長に1cm幅に切る。
- ほうれん草は根を除く。
- ハムを、千切りにする。
- 食パンを小さくちぎり、牛乳に浸けておく。
- 鍋を火に掛けサラダ油を熱し、両面に塩、コショウをした豚ロース肉のおもて面を色付け裏返し1～2分軽く焼き取り出す。鍋を火に掛け椎茸の足、玉ねぎ、にんにくを入れ焦がさぬように強火で炒め、水、フンドヴォーを注ぎ弱火で5～6分煮て豚ロース肉を戻し温める。
- フライパンを火に掛け温めバターを溶かし、ステーキを焼くように椎茸を色付くように焼き、エシャロットを振り込み、塩、コショウをして弱火で5～6分炒める。これをボウルに入れ粗熱が取れたら牛乳に浸したパン、パセリ、卵を合わせ塩、コショウで味を調える。
- ⑦の豚ロース肉を取り出し、おもて面を上にしてオープン用のテンパンに並べ、⑧の混ぜ合わせものを塗り、パン粉を振って、220℃のオープンで表面に焼き色が付くように焼く。⑦のソースは漉し軽く煮詰め、塩、コショウで味を調える。
- フライパンを火に掛け温めてバターを溶かし、キャベツ、ほうれん草を入れ弱火で炒め、ハム、大葉の千切りしたものを振り込み塩、コショウで味を調える。
- 皿に⑩を敷き豚ロース肉を盛りソースを散らす。

04 温かいパンのプリン ヨーグルトソースジャムを添えて



材 料 4人前

食パン	75g
(白いところ)	
牛乳	250cc
グラニュー糖	50g
バニラエッセンス	少々
卵黄	2個
全卵	1個
卵白	2個
食パン	30g
(白いところ/パン粉用)	
飲むヨーグルト	300cc
ブルーベリージャム	120g
ブルーベリー(生)	50粒程度
バター	10g
ミントの葉	少々

※蒸し器を用意する。

作り方

- ①食パンの白いところ(30g)を小さくちぎり弱火でかわかし冷ます。
冷めたらミキサーで細かいパン粉にする。
- ②大きめの湯のみ4ヶに、バターを塗り、パン粉を振掛けておく。
- ③ミキサーに、パン、グラニュー糖を入れ、温かい牛乳(40~50℃)を入れ3~4分細かくするまでかける。
- ④③をボウルに入れ、バニラエッセンス、全卵、卵黄をよく合わせる。
- ⑤卵白を泡立て、④と合わせ、②の器に入れ、ラップで蓋をして蒸す。
- ⑥皿の中央にプリンを置き、まわりに飲むヨーグルトを流し、プリンの上にブルーベリージャムを掛け、ブルーベリー(生)とミントを飾る。
(ジャム、フルーツは、お好みで変えても楽しい。)

第10回全国和牛能力共進会 2部門で日本一

おおいた

豊後牛

BUNGO GYU



大分の畜産 2012 (平成24年度版)

平成25年3月発行

編集・発行者 大分県 農林水産部 畜産振興課・家畜衛生飼料室

〒870-8501 大分市大手町3-1-1 TEL097-506-3674

印刷所 株式会社 インタープリント

※環境に配慮して再生紙を使用しています。